

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に向けて  
地域福祉に関する現状と課題についての  
調査報告書

この調査は、第3次黒部市地域福祉活動計画策定に向けて地域福祉の現状と課題に関する基礎調査として地区社会福祉協議会並びに福祉関係団体を対象にワーキング及びヒアリングを行うものである。

- 1 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会におけるワーキング実施報告
- 2 地域福祉に関する現状と課題についてのワーキング実施報告
- 3 地域福祉に関する現状と課題についてのヒアリング調査報告

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

### 第3次黒部市地域福祉活動計画策定に伴う関係調査実施報告概要

実施日	会議名	対象者	分野	備考
○第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会				
5月11日	第1回策定委員会にてワークショップの開催	策定委員14名	地域支援	
8月6日	第2回策定委員会にてグループワークの開催	策定委員14名	地域支援	
9月20日	策定に係る目標設定ワーキングの開催	策定委員5名 PTメンバー7名	地域支援	
11月26日	第3回策定委員会にてグループワークの開催	策定委員10名	地域支援	

○ワーキング・ヒアリング調査				
3月～6月 随時	地縁型ボランティア活動支援者へのヒアリング	16地区 全38名	地域支援	
8月～9月 随時	地区社会福祉協議会へのヒアリング	16地区 全52名	地域支援	
6月13日	ボランティア連絡会にてワークショップの開催	31団体 全32名	地域支援	
7月23日	黒部のとびら(移住者団体)へのヒアリング	会員8名	移住者	
8月30日	NPO法人 宇奈月自立塾へのヒアリング	理事長1名	少数派	
10月2日	富山県立桜井高等学校へのヒアリング	元生徒会 執行部2名	次世代	

○アンケート調査				
2017年度	福祉に関する中学・高校生アンケート (桜井高等学校、黒部市内中学校4校)	中学生351名 高校生575名	次世代	報告書2017 年度作成済
7月6日	福祉に関わる団体支援者アンケート (民生委員児童委員用)	113名	地域支援	
7月20日	福祉に関わる団体支援者アンケート (ボランティア登録団体用)	60団体	地域支援	

○黒部市社会福祉協議会職員全体会議				
7月24日	職員全体会議にてワークショップの開催	職員21名	地域支援 生活支援	

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における  
ワーキング実施報告書

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

【目 次】

1. 第1回策定委員会におけるワークショップ実施報告
2. 第2回策定委員会におけるグループワーク実施報告
3. 策定に係る目標設定ワーキング実施報告
4. 第3回策定委員会におけるグループワーク実施報告

◎第1回 黒部市第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における調査報告（一部抜粋）

この調査は、第1回黒部市地域福祉活動計画策定委員会（5月11日）に出席された委員14名を対象に行われたワークショップの結果をまとめた（委員名個別紙参照）

(W.Sの進め方)

1. 自団体の現状、想定（5年後）について、①人、②場、③しくみ、④拠点、⑤資金・資源、⑥次世代、⑦マイリリティー・新たな課題の5つのテーマに分けて話し合う
2. 最後に想定（目標）、今後目指していきたいことを聞く



分類	①人に関すること	②場（場・しくみ・拠点）に関すること	③金（資金・資源）に関すること	④次世代に関すること	⑤マイリリティーに関すること、新たな課題
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経路が必要</li> <li>・順応制によりリーダーの意識が低い</li> <li>・役員がなかなか決まらない</li> <li>・親子関係が希薄している</li> <li>・メンバーが重なる</li> <li>・仲間意識がほとんどなくできていない</li> <li>・認知度が低い</li> <li>・社会福祉の背景が周知されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が浸透しない</li> <li>・みんなが関心を持つ事業が少なくない</li> <li>・老人施設の特権、現在では以前より少ない</li> <li>・福祉センターの利用が高齢者のみで家族で使われていない</li> <li>・子供も参加できるイベントが少なくない</li> <li>・大勢の企業は地域と関わりが経済的に動いていないのか？</li> <li>・しくみや場、団体のことを知らない人が多い</li> <li>・どこに相談していいかわからない</li> <li>・高齢者でも障がい者でもみんな参加される場、しくみ</li> <li>・車の運転ができず、参加したくてもできない人もいる</li> <li>・市町村で差がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動資金がうまく集まらない</li> <li>・クラウドファンディングは分野によってとりやすいが建ち</li> <li>・保育現場にはお金がこない</li> <li>・人口減少により現場のお金も減</li> <li>・制度がわからない</li> <li>・1人1人によって運営費の差がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子供の情報が得られない</li> <li>・子供に声をかけづらくない（不審者）</li> <li>・代表になりにくくない</li> <li>・集まって何かしようと思わない</li> <li>・移住者や高齢者ばかりではない</li> <li>・結婚しない人が増えた</li> <li>・協力してくれる保護者がたくさんいる</li> <li>・役員になれば仕方なくする</li> <li>・家族をもてば、地域資源を使う</li> <li>・一人で何とかしようとする</li> <li>・他の集合体で組織をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人との交流がない</li> <li>・戸籍のない外国人⇒市の支援を受けられない</li> <li>・身寄りのない方、関係の希薄化</li> <li>＜新たな課題＞</li> <li>・近所の人の情報が全く得られない</li> <li>・町内単位での高齢者の格差</li> <li>・片親、再婚組</li> <li>・求人が来ない</li> <li>・都合に行こうと思う人増</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーが率先してやっている</li> <li>・負担なく継続できている</li> <li>・自発的にボランティアに子供が取り組んでいる</li> <li>・協力して見守り活動している</li> <li>・定年後のサポートの協力あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先駆的な活動の場があり、定着してきている</li> <li>・活動が定着してきた</li> <li>・組織化する場づくり</li> <li>・1つの事業をしくみ化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定年後のサポートの協力</li> <li>・自分たちで動員して、資源を集めてくる</li> <li>・市社協、地区社協より助成をいただく</li> <li>・活動に資金がつく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体感を通じて、人材を発掘している</li> <li>・元気にあいきつをつけてくれる子供がいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の集まりがある</li> </ul>
想定（5年後）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と一緒に活動できる</li> <li>・人材発掘、育成</li> <li>・教員にならなりたい人が少ない</li> <li>・少子高齢化（他業を越える）</li> <li>・地域を支える活動の充実</li> <li>・社協としての人材育成</li> <li>・順番制になる（リーダー）</li> <li>・リーダーになりにくくない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の場が広がればいい</li> <li>・集まりの場の希薄化</li> <li>・昔の地域の様に戻したい（地域の見守りがある）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減＝資金も減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを次世代に交代していきけるしくみづくり</li> <li>・若い人にしてほしい</li> <li>・人材を養育、育成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の活躍の場（雇用）</li> <li>・外国人の受け入れが増</li> </ul>
理想（目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者も活躍する（がんばる！）</li> <li>・出生率1.8人を超える</li> <li>・定年後の人から人材発掘する</li> <li>・リーダーの順番制をなくしていく</li> <li>・郷土愛を持ったリーダーを育てる</li> <li>・他県からの移住も受け入れる温かさのある地域（人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達に戻ってきたらいいと思える黒部のまちづくり</li> <li>・空き家を積極的に活用されるようになってほしい</li> <li>・みんなにでも空き家が提供されるようになればいい</li> <li>・NPO法人などに在居の人達か心を開いてくれたらいい</li> <li>・くらネットを広げる（毎年訪問、意識づくり）</li> <li>・情報共有</li> <li>・若い保護者に伝えるべきしてほしい</li> <li>・みんながお互い様を言える、許し合える社会づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金の範囲が豊富に活用できるようにしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達に感謝づけを行う（福祉教育）</li> <li>・小さい頃から地域との関わりを増やして人材を育てる（行事を通して）</li> <li>・地域のリーダーとなりえる人材を育てる</li> <li>・年代ごとに得意分野を發揮できればいい</li> <li>・若者、年配の人、お互いを受け入れられるのが理想</li> <li>・兼業主婦が多いので情報を渡す</li> <li>・市外に行っても黒部のいい所がわかるしくみ</li> </ul>	

**1. 人（ひと）**  
 ☆理想（ひと）  
 ・高齢者も活躍する（がんばる！）  
 ・出生率1.8人を超える  
 ・定年後の人から人材発掘する  
 ・リーダーの順番制をなくしていく  
 ・郷土愛を持ったリーダーを育てる  
 ・他県からの移住も受け入れる温かさのある地域（人）

**2. 場（ば）**  
 ☆理想（ひと）  
 ・子供達に戻ってきたらいいと思える黒部のまちづくり  
 ・空き家を積極的に活用されるようになってほしい  
 ・みんなにでも空き家が提供されるようになればいい  
 ・NPO法人などに在居の人達か心を開いてくれたらいい  
 ・くらネットを広げる（毎年訪問、意識づくり）  
 ・情報共有  
 ・若い保護者に伝えるべきしてほしい  
 ・みんながお互い様を言える、許し合える社会づくり

**3. 資金・資源**  
 ☆理想（ひと）  
 ・助成金の範囲が豊富に活用できるようにしてほしい

**4. 次世代**  
 ☆理想（ひと）  
 ・子供達に感謝づけを行う（福祉教育）  
 ・小さい頃から地域との関わりを増やして人材を育てる（行事を通して）  
 ・地域のリーダーとなりえる人材を育てる  
 ・年代ごとに得意分野を發揮できればいい  
 ・若者、年配の人、お互いを受け入れられるのが理想  
 ・兼業主婦が多いので情報を渡す  
 ・市外に行っても黒部のいい所がわかるしくみ

**5. マイリリティー・新たな課題**  
 ☆理想（ひと）  
 ・外国人の集まりがある  
 ・外国人の活躍の場（雇用）  
 ・外国人の受け入れが増

**（まとめ）**  
 各委員から、自団体における現状、想定、課題について様々な意見が上がった。中でも「人」に関する課題が最も多く、さらには人づくり、人育ちをやるうえで、場（しくみ）づくりも必要であることが見えてきた。活動計画策定にあたり、どのような目標設定が必要となるか、併用して行っているピアリングやアンゲート組織内容も同時に区別し、今後、どのようなことに力を入れて取り組んでいくべきかを絞り込んでいく。



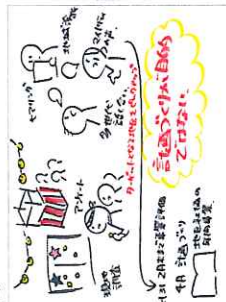
◎第2回 黒部市第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における調査報告（一部抜粋）

この調査は、第2回黒部市地域福祉活動計画策定委員会（8月6日）に出席された委員14名を対象に行われたグループワークの議案をまとめた（委員名簿別紙参照）（G.Wの進め方）

1. 黒部市の福祉を良くする活動計画の5つの目標に対するターゲットについて、個人で考え提案する
2. 黒部市全体で取り組む3つの重点事業について、共通理解を図るため、内容について疑問に思っていることを社協職員に問う

分類	活動人口を育てよう	つながる場をつくらう	すべての人々に福祉を	未来を担う次世代の参加	パートナーシップで目標を達成しよう
具体的内容を示して、簡単なことから取り組めるよう募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者を募り、地域活動を行う</li> <li>・活動経費の復興共済</li> <li>・多くの人と関わることを考える</li> <li>・ポイントがもらえる</li> <li>・学校で子供たちに教える</li> <li>・子供連れでも参加できるようにする</li> <li>・未来の活動者を育てる</li> <li>・多世代交流で高齢者をつなげる</li> <li>・イベント的に楽しいものを作る</li> <li>・地区の楽しみ方を顕微鏡にやる</li> <li>・説明会と楽しいイベントをつなげて開催する</li> <li>・楽しみながらできるイベントを行う</li> <li>・民生委員、地区社協だけでなく、代表者同士話し合いの場をつくる</li> <li>・掘り起こし</li> <li>・団体の長にお願い、周知</li> <li>・移住定住を促進</li> <li>・外国人の増加、帰化</li> <li>・教団を低く</li> <li>・リサイクルを集めて回る</li> <li>・趣味の活動から社会活動に広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ趣味からの発信</li> <li>・学生と交流できるボランティアイベント</li> <li>・芸能人を呼んでのボランティアイベント</li> <li>・ICTのフル活用</li> <li>・ボランティア登録の制度をつくり、誰でも前回の良い時に参加できるようにする</li> <li>・ボランティア登録の場があっても同じようなことが無くとも</li> <li>・近所の方々と交流、関わる場がない</li> <li>・高齢者をつなげることができない</li> <li>・子供連れでも参加できるようにする</li> <li>・ボランティアメンバーと民生委員との話し合いの機会がない</li> <li>・具体的なSOS（テーマ）を公表して応募しやすくする</li> <li>・食卓会を設ける</li> <li>・世代間交流会を地やす</li> <li>・地域の伝統継承の場、世代間交流</li> <li>・異業種交流を地やす</li> <li>・福祉センター内に子育てひろばのような子育て連で行ける場をつくる</li> <li>・多少の補助金とか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「困っている人」はすべて福祉の対象者だという意識を広める</li> <li>・近所付き合いのない人がなかなか人の輪の中に入っていない状態が保たれない</li> <li>・地域の理解</li> <li>・高い教育レベル</li> <li>・人と人との交流を地やして行く</li> <li>・情報格差をなくする</li> <li>・知らない相談者の必要性</li> <li>・町内会、自治会に入りたがらない＝人と関わりたくない人</li> <li>・でかつ支援が必要なのはどのように関われるか</li> <li>・「おおきなお世話」になってはいけないので自分で声があげられる雰囲気づくり</li> <li>・電力会社などの情報連携</li> <li>・人に頼りたくない頑固な人</li> <li>・一人暮らしの高齢者（会話が来ない人）</li> <li>・障害があっても会話が聞き取れない時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達が主役の行事は参加が多い</li> <li>・地区行事の夏祭りとかには子供連と共に多く参加してもらえるが...</li> <li>・子供が遊ぶイベントや子供が活躍できるイベントを企画する</li> <li>・子供をターゲットにした事業をし、親やじいちゃんなどと一緒に参加させる</li> <li>・子供からお年寄りまでの全ての人が楽しめる夢のあるイベントを考える</li> <li>・子供にかきい頃から馴染みの場を見ることが重要</li> <li>・子供連れで参加できるようにする</li> <li>・夏祭りに「あんどん」に子供連で置いてもらい、当日親と一緒に別に行き、祭りを楽しんでもらっている</li> <li>・親子伝承体験</li> <li>・社会背景の説明</li> <li>・子供をだす</li> <li>・個別に参加をさそう</li> <li>・役員になってもらう</li> <li>・SNS等ICTで情報拡散</li> <li>・SNS映えのいいイベント</li> <li>・地域活動有休を！...せめて公的機関等</li> <li>・地域の祭り等に参加した場合、地域のみ派遣金受与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と民間、学校と民生委員、学校と町内会</li> <li>・地区と企業と共にまちづくりに取り組めれば地域づくりになる</li> <li>・事業の延長線上で活動を考えられる企業と</li> <li>・福祉に明るい人</li> <li>・自治体関係者との交流</li> <li>・元氣なお年寄り</li> <li>・核家族の今日（独居）老人と子育て家族をつなぐ</li> <li>・血のつながりではなくても交流が生まれることで相互により良いものを作らせると思います</li> <li>・外国人</li> <li>・わが事ごと</li> <li>・JC、YES、若い人達がいる団体</li> <li>・インクルージョンしながら専門分野を団体のみならず個人でも</li> <li>・地域の集いのQ&amp;Aをみんなで作りスマートフォンスピーカーに話させる</li> </ul>

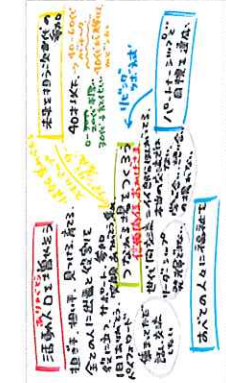
(会議の流れ)



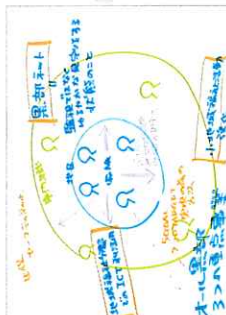
第3次地域福祉活動計画は、計画をつくること自体ではなく、それぞれの団体や活動者が地域福祉推進のための活動に取り組んでいくものにしていく必要がある。



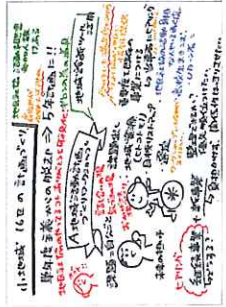
ヒアリング、アンケート調査の結果を基に、事務局内で討議した結果、大きな活動目標として、5つの目標が上げられた。



5つの目標について、策定委員が考えるターゲットを各自案ごとに上げてもらう。（上記一環参照）



5つの活動目標以外に、黒部市の重点として3つの事業を掲げている。その内容について、共通理解を図るため、意見交換し、今後の具体化の提案につなげていく。



小地域福祉活動計画においては、計画立案後、さらに小地域単位で目指す5年計画を検討していくこととなる。

項目	くろペネットに関する意見	ICTの活用に関する意見	【まとめ】
黒部市全体で取り組む3つの重点事業について、共通理解を図るため、内容について疑問に思っていることを社協職員に問う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くろペネットの認知が低く、知らないひとが多いのでは？</li> <li>・個人情報保護についての理解</li> <li>・民生委員への周知</li> <li>・関係者への周知</li> <li>・将来的にどんな世帯が対象となるのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいと伝えられがち、どうしたら地域の人に伝えられるか</li> <li>・どう使うのか、知っている人が使い方を伝えていくこと（身近なところから開始）が大切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各委員からそれぞれの分野において必要と感じるターゲットが上げられた。これらの意見を反映し、さらに少人数でワーキングを行い、目標とターゲットの絞り込みを行うこととした。</li> <li>3つの重点事項（くろペネット、ICTの活用、小地域福祉活動計画）については、くろペネットに対する疑問が多く上がった。地域住民への周知、事業への理解をどのように高めていくかが、今後の課題として残るが、黒部市社協で現在進めているくろペネット運営委員会を通して、その取り組みに対して体制強化を図ることとしていく。</li> </ul>



◎ 「第3次黒部市地域福祉活動計画」目標設定ワーキング報告（一部抜粋）

このワーキングは、黒部市地域福祉活動計画策定における目標及びターゲットの設定に向け、策定委員と社協PTメンバーで実施したワーキングの結果をまとめた

（出席委員）第1部：松原委員長、橋詰委員 / 第2部：岩井副委員長、村井委員、牟田委員

（PTメンバー）林、小倉、小柴、佐渡、坪崎、高村彩、高村千

(G,Wの進め方)

1. 第2回の策定委員会時に掲げていた目標の一部を変更し、具体的なターゲットを案として3つずつ掲げた
2. 4つの目標に対してそれぞれに掲げる3つのターゲット(案)について、委員とPTメンバーで2グループに分かれ話し合い、意見発表を行った

<p><b>GOAL① 活動人口を増やそう</b></p> <p>地域で活動する人増やし、地域の担い手を育てる</p> <p>TARGET① 小さな地域で出番を増やす TARGET② 住民主体の意識を育てる TARGET③ 世代間交流事業に取り組む</p> <p>活動人口を増やそう ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動人口とは？…定義は？ 現状把握、数値目標が必要では？</li> <li>・活動者が増やすことが目的か… 活動を示せる事例を増やす</li> <li>・そもそも福祉とは何だ？ 形として見えにくい</li> <li>・活動の成果、喜びがない 福祉＝目に見えないと意識しづらい</li> <li>・リーダーのリーダーを育てる…福祉に関心のある人を見つめる</li> <li>・振興会と地区社協の役割を分けることが良いのか？ 一体何が良いのか？</li> <li>・役割（町内会）が順番制 良いか、悪いか？</li> <li>・お祭り、イベントが世代をつなぐ⇒今あるものを活かす</li> <li>⇒祭り、知る、感じる機会⇒福祉教育にもなっている</li> <li>・災害、防災での共助の意識は高まってきている</li> <li>⇒防災支援センターには入りたいが町内会には入りたくない</li> <li>・出番と役割を整理</li> </ul>	<p><b>GOAL② 話すことからはじめよう</b></p> <p>話し合う場、学び合う場、支え合う場をつくる</p> <p>TARGET① 市内で学び合う場をつくる TARGET② 新しい話し合いの場をつくる TARGET③ ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場づくり</p> <p>話すことから はじめよう ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信する際、子供向け、多言語化が必要⇒webで知る、聊べる機会が増えている</li> <li>・くろベネットの会議⇒それぞれどんな活動をしているかを知る機会になった。意外に内部でも共有できていないことに気づいた。</li> <li>・支援者同士のつながりができ、さらにモチベーションupにもつながった。</li> <li>・対話の場づくり⇒集まることが目的は× 話すTalk ⇨ 知るknow</li> <li>・ボランティア団体の紹介…情報発信の方法⇒知らないと関わりようがない</li> <li>・リーダー層の集まりはあるが、団体を知らない地域（小地域）づくり</li> <li>・大きい単位だと見えにくい⇒目に見える地域（小地域）づくり</li> <li>・今ある事業、組織においてもつながるしくみ、場が必要</li> <li>・若者への情報発信（フェイスブック等を活用）高齢者・外国人へ発信</li> </ul>	<p><b>GOAL③ すべての人々に福祉を</b></p> <p>誰もが安心して暮らせる、社会的孤立の無い地域をつくる</p> <p>TARGET① 「お互いさまの支え合い」を実現する TARGET② 「声が届く地域、声を見つめる地域」を目指す TARGET③ 小地域単位の地域課題解決力を高める</p> <p>すべての人々に福祉を ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知ること、知ってもらうことが大事（マッチングできるしくみ）</li> <li>・お互いさま⇒Good あたり前から「お互いさま」へ</li> <li>・外国人が今後も増える⇒他県では孤立化している事例がある</li> <li>・意識改革 マイノリティー支援、取り組みに対する地域への情報発信不足</li> <li>・困っている前の状態での気づきが大事</li> <li>・8050問題、はさまの難しさ 現状知らないから…</li> <li>・見えない課題をどうキャッチしていくか</li> <li>・保育と地域の協力</li> <li>・「おせっかい」=コーディネーターが減ってきている 個人情報や顔面という理由から</li> <li>・「お願ひして」=「遠慮」がネック</li> <li>・自分事、他人事をどう地域事していくか？関心を持つか？</li> <li>・「<u>ありがどう</u>」の連鎖</li> </ul>
<p><b>GOAL④ U-40世代の力を活かそう</b></p> <p>U-40世代に地域福祉へ関わりや参加の機会を増やす</p> <p>TARGET① 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす TARGET② 10代、20代、30代、40代の声を入れる TARGET③ 全世代で共有し、福祉体験教育に取り組む</p> <p>U-40世代の力を活かそう ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決める場に参加</li> <li>・地区の話し合いに、関係団体と呼ぶ</li> <li>・地域団体は、意外に地域の話し合いに関わっていない</li> <li>・福祉体験 学校⇒社協、団体に依頼 社協からアプローチ</li> <li>プログラムを体系化する必要あり</li> <li>・いきなり20代、30代を誘うことは難しい</li> <li>・イベントや行事を通してまずはアプローチ</li> <li>・親子で参加 意識を変える</li> <li>・若者の強みを活かす</li> <li>例えば、若者が高齢者にスマホ、ITを教える（出番と役割）</li> <li>・<u>次の一手が大事!!</u></li> </ul>	<p><b>GOAL⑤ パートナーシップで目標を達成しよう</b></p> <p>様々な連携・共同で地域課題を解決していく力をつける</p> <p>TARGET① つながりプラットフォームを整備する TARGET② 異業種/異分野がコラボレーションする場づくり TARGET③ 地区同士の助け合い、連携を強化する</p> <p>パートナーシップで目標を達成しよう ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標は、①～④の目標を達成することを目的とし、TARGETを3つ掲げる</li> <li>※今回のG,Wは⑤を中心に話し合い、その内容を固めたうえで、⑤についてさらに話し合うこととする</li> </ul>	<p><b>まとめ</b></p> <p>目標① ★出番と役割の整理 年代、男女でやりたいことは違う。そこを一緒にするのは無理し、長く続けられる活動にすべし、まずは今あるものを活かす</p> <p>目標② ★お互いさま、ありがどう あらゆる物事を無理だろうと決めつけず、お願ひしてみることを始める。ありがどうの連鎖がおき、お互いさまの関係性が築かれ、地域社会に実現につながる</p> <p>目標③ ★対話の場づくり 集まることが目的の場づくりではなく、対話の場づくり、話すことで知る事ができる場であることと集める手段としてICTの活用は必須</p> <p>目標④ ★次の一手につなげる 多世代がたまたまには難しいが、多面的に入り込める人口があれば行なやすい。さらに大事なのは、そこからつながる次の一手である。若者の強みを活かす場づくり</p>

活動目標に対するターゲット(案)を考



◎ 第3回 黒部市第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における調査報告（一部抜粋）

この調査は、第3回黒部市地域福祉活動計画策定委員会（11月26日）に出席された委員9名を対象に行われたグループワークの結果をまとめた

（出席委員）1グループ：岩井副委員長、佐竹委員、牟田委員、橋詰委員 / 2グループ：松原委員長、立野委員、稲野委員 / 3グループ：大上戸委員、堀内委員、中田委員（PTメンバー）林、小倉、浜松、杉本、小柴、中野、森田、森田、飯野、坪崎、高村千

(G.W.の進め方)

1. 調査報告書及び黒部市地域福祉活動計画（概要版）を読み込み、その感想を委員とPTメンバーで3グループに分かれ話し合い、意見交換を行った。
2. 5つの目標に対し、自団体の取り組むための手段・手法について3グループで話し合い、意見発表し、情報共有した。

黒部市地域福祉活動計画（概要版）	自団体の取り組むこと	他団体を巻き込むための手段・手法
<p>【概要版全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・焦点が絞られていてわかりやすい</li> <li>・色はきれい</li> <li>・15通りはたくさんある</li> <li>・一般論としてカタカナは？</li> <li>【目標とターゲットについて】</li> <li>①住民主体の意識を育てる … 5年間の大きな課題 ⇒16地区振興会では新たなリーダーの育成、担い手づくりが必要</li> <li>②「マイノリティ」な？ カタカナかわからない ⇒注釈を入れる</li> <li>③U-40？ 40代は入るの？ 文中の40歳以下ではなく49歳以下に訂正</li> <li>④パートナーシップで… 文章内容がわかりづらい、難しい</li> <li>【3つの重点事業について】</li> <li>・地域福祉分野でのICT利活用『2』黄色のロゴを入れたらよい</li> <li>【その他現状と課題】</li> <li>○保育・児童生徒分野                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、小学校は守秘義務の壁が強く、行政でつなぐ役の人がいたらよい</li> </ul> </li> <li>○地区・民生委員分野                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の抱い手の将来は誰がみてるのか？</li> <li>・地区社協（民生委員、慶寿会、見守り員）他の団体に浸透しない</li> <li>・認識不足（くるべネットなど事業など、見守り報告書など）</li> <li>・民生委員さん見守り員35名いるが、何度説明しても現状を理解していない</li> <li>・活動報告書などの認識ができない</li> <li>・社協専属の事務が必要</li> <li>・主事には多くの業務がある</li> <li>・村椿地区は女性副会長⇒社協事業を専属に行ってもら</li> <li>・民生委員3年1期のため、次の方に伝えることが難しい</li> <li>・避難者の把握をしていく 地区推測会＝地区社協＝民生委員</li> <li>・障がい者の避難先</li> <li>・要支援者簿の確認、共有しておく必要がある 民生委員は名簿把握していない</li> <li>・お互いに見守り合う</li> <li>・互いに協力しないと上手くいかない</li> </ul> </li> <li>○高齢・福祉施設分野                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設→地域交流 保育所4、5ヶ所で行っている</li> <li>・介護教室、看護師、専門員 地区で要望があれば、専門職を派遣している</li> <li>・ボランティアの積極的な受け入れを行う 延べ1,000人のボランティア活動（機器（車椅子など）の貸出</li> <li>・避難所（その場に応じた施設へ避難）地域に向かい</li> </ul> </li> </ul>	<p>○高齢・福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③すべての人々に福祉を                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かあった時、災害などの人を助けられるのか？ 他人まで手を差し伸べられる</li> <li>・娘や息子と同居していると要援護者外れる</li> <li>・障がい者等、老運としてどこまで関わればよいか、線引きしていいか難しい</li> <li>・お互い者等の支え合い…<b>避難体制を整える</b></li> </ul> </li> <li>③すべての人々に福祉を⇒②にも結びつく⇒どう話し合っで理解して後部分担していくか</li> <li>○地区・民生委員分野                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①活動人口を増やそう</li> <li>・支え合い事業、今後必要 しばり等は考えて検討していけばよい</li> <li>・「安心ポケット」、「くろべネット」、「避難行動事業」</li> <li>・公民館を拠点に小さな公民館を区ごとに支え合い事業を</li> <li>・要本のような住居が離れている地域は</li> <li>・支え合い事業⇒村椿地区は全町内会で考えている</li> <li>今後、全地区でやれる地区でしていけば 言沢地区は始めている（財産区）</li> <li>・社会福祉だけでは難しい</li> <li>・各団体からの要望は100%お金を出している（体協等）⇒人は離れない</li> <li>⇒その中で3～4人育ててもらいたい、<b>活動家の育成</b></li> <li>・婦人部なし⇒女性部活用</li> <li>・ボランティアの育成はそのまま⇒若い人は同じメンバーばかりなので入りにくい</li> <li>⇒次世代の団体をつくる、年齢層で分ける、<b>横のつながりを作る</b></li> <li>・<b>住民主体の活躍を意識していきたい</b></li> <li>・やっていることをたくさん紐づけて売ってみたい</li> <li>⇒ここで組んだらちよよいのではということを考えていく</li> </ul> </li> <li>○保育・児童生徒分野                     <ul style="list-style-type: none"> <li>③すべての人々に福祉を                             <ul style="list-style-type: none"> <li><b>今を支える、</b>していきけること</li> <li>誰1人取り残さない支援をしていきたい</li> </ul> </li> <li>④U-40世代の力を活かそう</li> <li>福祉体験教育教育というより<b>まずは体験から</b></li> <li>【オブザーバーからのコメント】</li> <li>いきなり王手は取れない 「やってよ」はx 「ここをやってよ」と具体的にどう巻き込むか具体的な作成を立てて意識していく仕事ではないかと思う</li> <li>困っている人ではなく、困った人だとみられるのも意識していく</li> <li>理解する⇒どう理解していくか</li> <li><b>つなぐ役割の人が必要</b> 触媒機能 人、物すべて</li> <li>用語に簡潔よく言われているのがいい5がわかると必要と理解が必要</li> <li>災害時、障がい者プログラムが必要と言われている</li> <li><b>今あることから出発</b></li> <li>関心を持つ⇒参加へ うまくつなげるしくみが入れたいけるとよい</li> </ul> </li> </ul>	<p>・Webで公開する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介動画 (YouTube) や広報 (子供たちも喜ぶようなゆるい感じもよい)</li> <li>・みられれTV ⇒福祉の時間、企業訪問、紹介 活動おじやま</li> <li>・ホームページでのPR⇒すべて連携できるようにする</li> <li>・H.P.Iにマナーをのせる</li> <li>・SNS</li> <li>・企業にステッカーなどを貼ってもらう</li> <li>・ポスターをつくる</li> <li>・市報に掲載</li> <li>・福祉大会でアワードとして意識の高い企業を表彰</li> <li>・表彰する⇒活動に対する意識の高さを測る</li> <li>・見える化 モチベーション↑</li> <li>・名刺のウラ…いいアイデア</li> <li>・<b>とにかく流通 露出度を上げる</b></li> <li>・子供たちはシールも好き ⇒ボランティアに参加し集める、台紙に貼る</li> <li>・シール子供が好き、笑顔になれる そこから福祉に入れる入口</li> <li>・認知症サポーターのオレンジリングがあるようにリングを作る</li> <li>(例) 5色リング、レインボーリング、ももクロカラー等</li> <li>・胸章にする (14歳の挑戦など)</li> <li>・缶バッジ…社会福祉に関心ある方に渡す</li> <li>・災害時、災害場所へ行きたくても社協職員以外行きづらい</li> <li>⇒個人で行きたい時にバッジを</li> <li>・<b>身に着けるものがよい</b></li> <li>・福祉センターでスタンブラーリングを行う</li> <li>⇒高齢者での利用場所でないことを子供たちに知ってもらう</li> <li>・シンプルに進めてほしい</li> <li>・チェック体制書類が多すぎると職員の負担が増える</li> <li>⇒指標、評価、報告はシンプルに 年度末と他の報告とかがぶる</li> <li>・2目以降にサイトを作った、クリップをしたら評価が出るような指標づくりを</li> <li>・メッセージ書き込みサイトなど、プロのアイデアをもらって参加型にしていけなく</li> <li>・小さいことから1つ1つ共有しながら、話し合いながら広めていく</li> <li>・参加できる個人を集めてグループ化し活動を広める (誰もががすべ)</li> </ul> <p>【まとめ】</p> <p>活動計画の概要版について、各分野別の代表者から多くの意見があった。どの分野も実際に地域福祉にすでに取り組んで来ておられるため、そこから新たなことに取り組むことよりも、この計画を進めていくことで、横のつながりが深まり、多職種、異業種とつなぐつながることで、福祉活動全体の幅が広がることを感じられた。最後に、話し合われた手段・手法の中で提案していた内容を盛り込み、計画規定後のDo (実行) の部分を進めていければよいと考える。用語確認や修正箇所を見直し、最終調整を進めていく。</p>





地域福祉に関する現状と課題についての  
ワーキング実施報告書

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

【目 次】

1. 黒部市内ボランティア登録団体における調査報告
2. 黒部市社会福祉協議会職員における調査報告

◎黒部市内ボランティア登録団体における調査報告（一部抜粋）

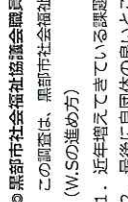
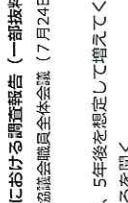
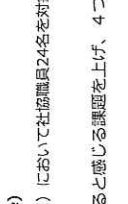
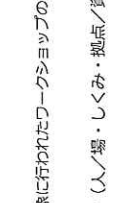
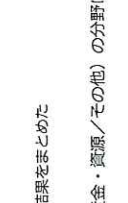
この調査は、H30年度 第1回ボランティア連絡会（6月13日）に参加された31団体を対象に行われたワークショップの結果をまとめた（参加団体別紙参照）  
（W.Sの進め方）

1. 自団体の現状、想定（5年後）、良いところを書き、4つ（人／場・しくみ・拠点／資金・資源／その他）の課題にそれぞれで分類してもらおう
2. 最後に自団体の理想（こうなりたい、目指すところ）を聞く



分類	●人に関すること	●物（場・しくみ・拠点）に関すること	●金（資金・資源）に関すること	●その他
現状（団体の課題や不安）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が高齢化している</li> <li>・若い会員が不足している</li> <li>・男性会員が少くない</li> <li>・新規会員が増えない</li> <li>・役員になる人がいない</li> <li>・若い役員がいない</li> <li>・事務担当者がいらない</li> <li>・企画者がいらない・少ない</li> <li>・年齢層に偏りがある</li> <li>・自主的な参加者が少ない</li> <li>・活動が趣味だけに限っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税やルールにしばられ活動しにくい</li> <li>・規制が厳しくなっている</li> <li>・ボランティアが仕事の区別がつかない</li> <li>・活動時間が勤務時間と重なる</li> <li>・活動する機会が少ない</li> <li>・活動がマンネリ化している</li> <li>・組織作りがうまくいっていない</li> <li>・活動内容がわかってもええ苦勞している、理解がない</li> <li>・活動手段（ニーズ）がわからず</li> <li>・情報が集まっておこなない</li> <li>・デジタル化についていけない</li> <li>・1人でたくさん業務を抱えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●金（資金・資源）に関すること</li> <li>・会費運営のため会員数が増えずと資金不足となる</li> <li>・会員の減少による会費(予算)不足</li> <li>・活動経費が不足している</li> <li>・資金集めに苦勞している</li> <li>・活動する資金が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>・研修会や会合が多い</li> <li>・地域との交流が少ない（連携不足）</li> <li>・地域へ出て行けない</li> <li>・移動手段がない</li> </ul>
想定（自団体の5年後）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数が激減している</li> <li>・利用者が激減している</li> <li>・役員の受け手が減る</li> <li>・ボランティア意識の低下</li> <li>・やらされてる感が増える</li> <li>・それぞれの施設で温度差が生じる</li> <li>・体力が衰え活動が困難となる</li> <li>・活動ができなくなる</li> <li>・活動する体力がなくなる</li> <li>・家族の高齢化</li> <li>・高齢になり引退している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動する場が減っている</li> <li>・移動手段がなく活動が困難</li> <li>・少子化により活動する場が減る</li> <li>・提出書類がさらに複雑化している</li> <li>・デジタル化についていけない</li> <li>・事務作業(提出書類等)が複雑化している</li> <li>・活動への理解が希薄している</li> <li>・活動の要求が増えている</li> <li>・活動拠点が老朽化し解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資金集め</li> <li>・資金源</li> <li>・予算と人員の減少</li> <li>・活動財源が不足し休止または解散</li> <li>・活動の場が古くなり、修理にお金がかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボラ内容の理解度</li> <li>・地元の振興会との連携不足</li> <li>・環境への取り組み（不用品の再利用）</li> <li>・高齢のため交通事情の時は活動をやめる</li> </ul>
理想（目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が育つていき活動内容が豊かになる</li> <li>・現役員と同じ意識を持った若手が出てくることに期待する</li> <li>・役員を増やす</li> <li>・若手役員（リーダー）を増やし活動の幅を広げる</li> <li>・会員の若返りを図る</li> <li>・全町内にボランティア会員をつくる</li> <li>・会員数を増やしていきたい</li> <li>・幅広い年代でまちづくりを楽しむ</li> <li>・男女の活動者が半々くらいでバランスよく</li> <li>・登録団体（個人）を黒部市の人口の1割を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の活動を維持していきたい（活動を増やさない）</li> <li>・活動者を増やすための研修会等を増やしていきたい</li> <li>・ボランティアを広く理解してもらおう</li> <li>・地域や他団体との連携を密にしていきたい</li> <li>・リーダーを増やし交代できるしくみづくり</li> <li>・地域との連携を取り、もっと活動の範囲を広める</li> <li>・活動をもっとPRしていきたい</li> <li>・地域の方とたくさん交流していきたい</li> <li>・人が集まれる、開かれた場所があればいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の歴史を掘り起こしていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に喜んでいただける活動をしたい</li> <li>・子供連や町づくり、社会問題に立ち向かいより良い黒部に</li> <li>・活動を通して子育ての楽しさを伝えていきたい</li> <li>・取り巻く人々を幸せにしたい</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が皆協力的で仲良しである</li> <li>・運搬感がありチームワークがよい</li> <li>・頼られる、感謝される</li> <li>・人を思いやる気持ちがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と関わりがもてる、他団体と交流できる</li> <li>・人助けができる、やりがいを感じる</li> <li>・色んなことが学べる</li> </ul>	<p>【まとめ】</p> <p>団体の現状（課題）について、ほとんどの団体が会員が増えない、5年後には活動者が高齢となり、会員の減少が想定されると感じていた。さらに、人に関する課題以外に、活動に対する理解不足や活動のマンネリ化、組織作りがうまくいっていないなどの課題も上げられた。今後は、若い会員や若手のリーダーを増やすことを目標とし、そのためにも、活動者を増やすためのしくみづくり、人が集まるための場づくりが必要であることがわかった。</p>	





●黒部市社会福祉協議会職員における調査報告（一部抜粋）  
この調査は、黒部市社会福祉協議会職員全体会議（7月24日）において社協職員24名を対象に行われたワークショップの結果をまとめた（W.Sの進め方）

1. 近年増えてきている課題、5年後を想定して増えてくると感じる課題を上げ、4つ（人/場・しくみ・拠点/資金・資源/その他）の分野に分けてもらう

2. 最後に自団体の良いところを聞く

分類	（高齢者及び介護者に関する問題）	（地域における問題）	（自団体における問題）	●物（場・しくみ・拠点）に関すること	●金（資金・資産）に関すること	●その他
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設へ入る家族が増えた（認知症）</li> <li>介護サービスで困っている人が増えている</li> <li>家族のヘルパーへの依存が多さ</li> <li>家族の協力が得られない</li> <li>介護介護力が低い</li> <li>大変な利用者と多い</li> <li>利用者の増加（対応できない）</li> <li>利用者の要介護の多様化、高度化</li> <li>ヘルパー不足なのに高齢者が増えている</li> <li>必要サービス不足</li> <li>家族支援希薄</li> <li>支援が必要な高齢者の急増</li> <li>利用者が増えている（施設の人等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引きこもり</li> <li>困っていることを言わない人が増える</li> <li>気になる人が多くて把握しきれない</li> <li>地域への依存</li> <li>行政や制度に依存</li> <li>リハビリに結びつかない方々</li> <li>他人の事に関係が薄い人が増えている</li> <li>働いていない人が増えている</li> <li>仕事が終わらない人の増加</li> <li>低収入の人が増えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業への参加者が減っている</li> <li>団体の会員が減っている</li> <li>資格取得や資質向上に時間がかかると感じる人が増えている</li> <li>職員の人材育成関係の協力</li> <li>ヘルパーの足りなさ</li> <li>若いヘルパーさんが少ない</li> <li>介護人材不足</li> <li>ヘルパーの高齢化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパー同士気軽に話ができる場所がない</li> <li>訪問介護の業務増加への対応能力</li> <li>訪問件数が増える</li> <li>訪問以外の仕事も多い</li> <li>書類（文書）作成に時間がかかる</li> <li>事務仕事が増えてきていらない</li> <li>研修が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●金（資金・資産）に関すること</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>運営経費の確保</li> <li>委託ヘルパーの働ける時間が少なくなった（時給がUPしたため）</li> <li>新規の仕事がとれない</li> <li>働ける時間が少なくなったので新規のケースをすぐ受け取れない</li> <li>資金（現金）が減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>社協の連携があるのか</li> </ul>
課題や不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>（支援者が抱える問題）</li> <li>家族（世帯）で支援が必要ケースの相談が増えている</li> <li>支援してくれる人（家族）が少ない相談</li> <li>困難なケースが多さ標準的な支援ではない</li> <li>複雑な家族関係への支援</li> <li>家族の理解が得られなくなった</li> <li>相談人が少ない</li> <li>家族と連絡がとれない</li> <li>今のサービスだけでは支援ができなくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（自団体における問題）</li> <li>事業への参加者が減っている</li> <li>団体の会員が減っている</li> <li>資格取得や資質向上に時間がかかると感じる人が増えている</li> <li>職員の人材育成関係の協力</li> <li>ヘルパーの足りなさ</li> <li>若いヘルパーさんが少ない</li> <li>介護人材不足</li> <li>ヘルパーの高齢化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（自団体における問題）</li> <li>制度が変化していき</li> <li>サービス内容の複雑化（利用者の要求が複雑に）</li> <li>ヘルパー事業所が増える</li> <li>拠点施設の建築</li> <li>建物の老朽化</li> <li>事業が多様、更に専門性が求められる</li> <li>事業の浮航</li> <li>ICTについていけない</li> <li>事業所の運営が成り立たなくなる？人材不足等</li> <li>地区社協事業の充実</li> <li>どんな仕事が多くあっても生き残るまでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物（場・しくみ・拠点）に関すること</li> <li>制度が変化していき</li> <li>サービス内容の複雑化（利用者の要求が複雑に）</li> <li>ヘルパー事業所が増える</li> <li>拠点施設の建築</li> <li>建物の老朽化</li> <li>事業が多様、更に専門性が求められる</li> <li>事業の浮航</li> <li>ICTについていけない</li> <li>事業所の運営が成り立たなくなる？人材不足等</li> <li>地区社協事業の充実</li> <li>どんな仕事が多くあっても生き残るまでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●金（資金・資産）に関すること</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>運営経費の確保</li> <li>委託ヘルパーの働ける時間が少なくなった（時給がUPしたため）</li> <li>新規の仕事がとれない</li> <li>働ける時間が少なくなったので新規のケースをすぐ受け取れない</li> <li>資金（現金）が減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>社協の連携があるのか</li> </ul>

分類	（高齢者及び介護者に関する問題）	（支援者に関する問題）	（自団体における問題）	●物（場・しくみ・拠点）に関すること	●金（資金・資産）に関すること	●その他
想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤立する人が増えていくのでは</li> <li>引きこもり</li> <li>十分な支援ができず状態が悪化する</li> <li>介護職員の増加（放置状態）</li> <li>高齢者を支える者が少なくなるのでは</li> <li>個別支援の増加</li> <li>高齢者（利用者）は増、ヘルパー減</li> <li>必要としている人の所へ訪問できない</li> <li>高齢化が進み、お互い介護が必要となる</li> <li>介護の仕事より生活援助が必要か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（支援者に関する問題）</li> <li>業務が多すぎて担い手がいなくなるのでは（ボランティアの方など）</li> <li>ボランティア職員の交代、役員不足</li> <li>生活支援員不足</li> <li>団体の会員、役員は減るものなんだから維持している</li> <li>生活保護を受けの人が増えるのでは？</li> <li>独身者増、地域の関係づなが弱まる</li> <li>見守りだけで支えきれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（自団体における問題）</li> <li>ヘルパーの高齢化</li> <li>介護手（ヘルパー）が大幅減</li> <li>65歳にもっとも働かされればならない</li> <li>常勤ヘルパーがいないのでは？</li> <li>個人のスキル賃金が求められる</li> <li>自分も病気が認知でヘルパーさんに来てもらう立場になっている</li> <li>自分の健康</li> <li>自分も介護される側になる</li> <li>体力の限界、体をこらして仕事できない</li> <li>介護と仕事の両立</li> <li>事業への参加者がさらに減る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物（場・しくみ・拠点）に関すること</li> <li>制度が変化していき</li> <li>サービス内容の複雑化（利用者の要求が複雑に）</li> <li>ヘルパー事業所が増える</li> <li>拠点施設の建築</li> <li>建物の老朽化</li> <li>事業が多様、更に専門性が求められる</li> <li>事業の浮航</li> <li>ICTについていけない</li> <li>事業所の運営が成り立たなくなる？人材不足等</li> <li>地区社協事業の充実</li> <li>どんな仕事が多くあっても生き残るまでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●金（資金・資産）に関すること</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>運営経費の確保</li> <li>委託ヘルパーの働ける時間が少なくなった（時給がUPしたため）</li> <li>新規の仕事がとれない</li> <li>働ける時間が少なくなったので新規のケースをすぐ受け取れない</li> <li>資金（現金）が減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>（自団体の課題）</li> <li>外国人さんを受け入れヘルパーさんを感じていく必要が出てくる</li> <li>行政との関係が事務的になっていく</li> <li>子ども食堂との関係性、関わり</li> </ul>
5年後の課題や不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>（高齢者及び介護者に関する問題）</li> <li>孤立する人が増えていくのでは</li> <li>引きこもり</li> <li>十分な支援ができず状態が悪化する</li> <li>介護職員の増加（放置状態）</li> <li>高齢者を支える者が少なくなるのでは</li> <li>個別支援の増加</li> <li>高齢者（利用者）は増、ヘルパー減</li> <li>必要としている人の所へ訪問できない</li> <li>高齢化が進み、お互い介護が必要となる</li> <li>介護の仕事より生活援助が必要か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（支援者に関する問題）</li> <li>業務が多すぎて担い手がいなくなるのでは（ボランティアの方など）</li> <li>ボランティア職員の交代、役員不足</li> <li>生活支援員不足</li> <li>団体の会員、役員は減るものなんだから維持している</li> <li>生活保護を受けの人が増えるのでは？</li> <li>独身者増、地域の関係づなが弱まる</li> <li>見守りだけで支えきれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（自団体における問題）</li> <li>ヘルパーの高齢化</li> <li>介護手（ヘルパー）が大幅減</li> <li>65歳にもっとも働かされればならない</li> <li>常勤ヘルパーがいないのでは？</li> <li>個人のスキル賃金が求められる</li> <li>自分も病気が認知でヘルパーさんに来てもらう立場になっている</li> <li>自分の健康</li> <li>自分も介護される側になる</li> <li>体力の限界、体をこらして仕事できない</li> <li>介護と仕事の両立</li> <li>事業への参加者がさらに減る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物（場・しくみ・拠点）に関すること</li> <li>制度が変化していき</li> <li>サービス内容の複雑化（利用者の要求が複雑に）</li> <li>ヘルパー事業所が増える</li> <li>拠点施設の建築</li> <li>建物の老朽化</li> <li>事業が多様、更に専門性が求められる</li> <li>事業の浮航</li> <li>ICTについていけない</li> <li>事業所の運営が成り立たなくなる？人材不足等</li> <li>地区社協事業の充実</li> <li>どんな仕事が多くあっても生き残るまでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●金（資金・資産）に関すること</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>運営経費の確保</li> <li>委託ヘルパーの働ける時間が少なくなった（時給がUPしたため）</li> <li>新規の仕事がとれない</li> <li>働ける時間が少なくなったので新規のケースをすぐ受け取れない</li> <li>資金（現金）が減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>（自団体の課題）</li> <li>外国人さんを受け入れヘルパーさんを感じていく必要が出てくる</li> <li>行政との関係が事務的になっていく</li> <li>子ども食堂との関係性、関わり</li> </ul>
5年後の課題や不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>（高齢者及び介護者に関する問題）</li> <li>孤立する人が増えていくのでは</li> <li>引きこもり</li> <li>十分な支援ができず状態が悪化する</li> <li>介護職員の増加（放置状態）</li> <li>高齢者を支える者が少なくなるのでは</li> <li>個別支援の増加</li> <li>高齢者（利用者）は増、ヘルパー減</li> <li>必要としている人の所へ訪問できない</li> <li>高齢化が進み、お互い介護が必要となる</li> <li>介護の仕事より生活援助が必要か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（支援者に関する問題）</li> <li>業務が多すぎて担い手がいなくなるのでは（ボランティアの方など）</li> <li>ボランティア職員の交代、役員不足</li> <li>生活支援員不足</li> <li>団体の会員、役員は減るものなんだから維持している</li> <li>生活保護を受けの人が増えるのでは？</li> <li>独身者増、地域の関係づなが弱まる</li> <li>見守りだけで支えきれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（自団体における問題）</li> <li>ヘルパーの高齢化</li> <li>介護手（ヘルパー）が大幅減</li> <li>65歳にもっとも働かされればならない</li> <li>常勤ヘルパーがいないのでは？</li> <li>個人のスキル賃金が求められる</li> <li>自分も病気が認知でヘルパーさんに来てもらう立場になっている</li> <li>自分の健康</li> <li>自分も介護される側になる</li> <li>体力の限界、体をこらして仕事できない</li> <li>介護と仕事の両立</li> <li>事業への参加者がさらに減る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物（場・しくみ・拠点）に関すること</li> <li>制度が変化していき</li> <li>サービス内容の複雑化（利用者の要求が複雑に）</li> <li>ヘルパー事業所が増える</li> <li>拠点施設の建築</li> <li>建物の老朽化</li> <li>事業が多様、更に専門性が求められる</li> <li>事業の浮航</li> <li>ICTについていけない</li> <li>事業所の運営が成り立たなくなる？人材不足等</li> <li>地区社協事業の充実</li> <li>どんな仕事が多くあっても生き残るまでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●金（資金・資産）に関すること</li> <li>（自団体における問題）</li> <li>運営経費の確保</li> <li>委託ヘルパーの働ける時間が少なくなった（時給がUPしたため）</li> <li>新規の仕事がとれない</li> <li>働ける時間が少なくなったので新規のケースをすぐ受け取れない</li> <li>資金（現金）が減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> <li>（自団体の課題）</li> <li>外国人さんを受け入れヘルパーさんを感じていく必要が出てくる</li> <li>行政との関係が事務的になっていく</li> <li>子ども食堂との関係性、関わり</li> </ul>

まとめ  
日頃から、地域や在宅に関わる専門職の目から見て、地域における課題が顕著化し、家族関係の希薄化などが深刻な問題となっており、強く懸念していることが伺える。  
支える側より支えられる側の人が多くなり、今後、独居や在宅支援者が増える中、人の問題は大きな課題となってきている。在宅支援者に関しては、若手職員の不足、現職員の高齢化に伴い、働き手の不足、介護支援者の不足に対して危機を感じている。  
課題も多し中、現場において、世代間のバランスが取れていることが長きにつながり、いろんな人と産せること、アドバンスが関わることなど、人とのつながりが強く、良い職場であると感じている人が多かった。

地域福祉に関する現状と課題についての  
ヒアリング調査報告書

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

## 【目次】

(実施団体)

- ・ 地区社会福祉協議会（全 16 地区） ..... 1
- ・ 黒部のとびら（移住者団体） ..... 17
- ・ NPO 法人 宇奈月自立塾 代表 ..... 18
- ・ 富山県立桜井高等学校 元生徒会執行部 ..... 19
- ・ 地縁型ボランティア活動支援者団体（全 16 地区） ..... 20



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月25日(火) 10:00~11:00
実施団体	生地地区社会福祉協議会
人数	3名(石崎地区社協長、漆間自治振興会長、川尻主事)
聞き取り	(浜松)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 7区 世帯数 1,538世帯 人口計 3,867人(男:1,884人 女:1,983人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併当初は7,000人の人口がいたが、現在は3,900人を切っている</li> <li>・コミセンはまち歩きの方や観光客がよく訪ねてくる</li> <li>・小学校の合併、今後どうなるか…</li> <li>・学校との連携が取れている</li> <li>・コミセンに専門的な相談が入るが、市社協へつなぐようにしている</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在生地は7地区で、大町、阿弥陀堂は高齢化率が高いため、祭りの当番はできないと言われている⇒2町内合同で行うなどの工夫が必要</li> <li>・くろベネット、避難行動があり、民生委員が混乱しているため、様式を統一するなど工夫してほしい</li> <li>・村椿と生地の境目は高本自動車だが、境目の方は希望をお聞きして「生地にしたい」と言われれば、生地の敬老会に出ていただく</li> <li>・3か所で石田みどりさんの体操を行っている ⇒自分の町内関係なく行きやすいところへ参加することができる</li> <li>・「コミセン」(8:30~21:00)の利用率は高く、利用予約の黒板がすぐに埋まってしまふ</li> <li>・サークル等でコミセンを使われている方の発表の場を作っている</li> <li>・老人クラブは全部にあるが、壮年会は現在四十物町にしかない</li> <li>・ボランティア部会はあとからできた、以前からボランティア活動は行われてきた</li> <li>・「潮風センター」は個人でボランティアとして入っていただいている</li> <li>・「潮風センター」と小学生との交流会、こども園との交流会を行っている</li> <li>・男性はパークゴルフをしている人も多い</li> <li>・リーダーは自分の次をしっかりと決めていく</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「潮風センター」の継続が心配</li> <li>・バスに乗り損ねた人への対応</li> <li>・若手の親世代が頑張るので若手の発掘ができていない…どのように工夫していくか</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミセンを中心として人が集まる</li> <li>・顔を合わせて話す機会が多い</li> <li>・寄付が多い</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての世代に地域に参加してほしい</li> <li>・生地幼稚園の跡地をどう利用するか、メンテナンスのことも考えて…</li> <li>・高岡屋のような場があれば良い</li> <li>・防災ラジオについて、アナログからデジタルへ</li> </ul>
まとめ	<p>コミセンを中心に様々な活動が行われている生地地区。活動をより活性化するための工夫がなされ、活動者が活動しやすいしくみづくりができています。また、高齢者にとっては、ボランティア活動者の協力により、多くの方が活動に参加できる体制が築かれ、地域の子供たちとの交流も大切にしています。さらに、観光客も多く中心部が賑やかな印象をうけるため、これを強みに更なる地域活性につなげていければよいと考えます。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年10月5日(金) 13:30~14:30
実施団体	石田地区社会福祉協議会
人数	4名(能登地区社協長(兼自治振興会長)、篠崎副会長、羽柴ボラ部会長、中野まちづくり推進員)
聞き取り	(中野)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 7区 世帯数 2,588世帯 人口計 5,996人(男:3,050人 女:2,946人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の方から、町内会費を払っていない人をくろベネットの対象者にしてよいのか今後どうしていけばよいのか、手厚く支援すべきなのかと意見が上がっている ⇒くろベネットは支援すべき困っている人を助けることなので、声掛けや避難訓練等にも参加を促している</li> <li>・町内会費を払っていない人には、広報誌を配布していない</li> <li>・11/4に防災訓練を実施する(防災士7名)⇒訓練の計画から参加してもらおう何事も自主的に活動していく、段取りしすぎるとダメ</li> <li>・福祉課との連携をもっと密にしてほしい(くろベネットと避難行動要支援者等)</li> <li>・福祉関係としてよく似ている福祉課と社協を、一つの窓口にしたらよいのでは</li> <li>・市社協が地区の個別支援のことに対し相談があった場合、地区社協にも知らせてほしい</li> <li>・町内会長の仕事が増えすぎている、負担が大きい⇒なり手がいなくなる</li> <li>・青年団組織がない</li> <li>・壮年会はあるが、地域活動は個人が判断 組織では特に活動ない</li> <li>・民生委員も負担が大きい</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の仕事がどんどん増えてきているため、なり手がいなくなると不安</li> <li>・40代以下の方に地域活動にほとんど関わってもらっていないので、若い世代をどう巻き込むか、組織のあり方を考えていく必要がある</li> <li>・くろベネットのゴミ出しなど、頑張りすぎると次に交代する人がその頑張りを引き継がないといけなく大変であるため、どこまで関わっていけばよいか難しい</li> <li>・今ボランティアで活躍している方がいなくなったら、次世代がいなくてピンチ参加はしたいけど、お世話はしたくない、上に立ちたくないという人が多い中で、活動をどのように継続していくべきか</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強制ではなく、自主的に活動してもらっている</li> <li>・会議は日中に行っている(まちづくり推進員の負担軽減)</li> <li>・役員皆がんばっている</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40代以下の若い世代の人に地域活動に参加してもらえるようにしたい</li> <li>・強制ではなく、自主的な活動者を増やしていきたい</li> <li>・地区社協と市社協の連携を強めていけるしくみづくり</li> </ul>
まとめ	<p>町内の困りごとを解決していくための支援にどこまで関わっていけばよいか、町内からの意見も多い中で、活動参加には自主性を大事にしていきたいと望んでいる。現活動者は積極的で頑張る方が多いが、一方で、次世代の活動者が不足し、不安を抱えている。福祉分野の課題が複雑多様化している中で、地域を守る意識を若手に引き継いでいくためのしくみづくりを考えていく必要がある。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年10月2日(火) 9:30~10:30
実施団体	田家地区社会福祉協議会
人数	4名(田村地区社協長(兼自治振興会長)、中谷まちづくり推進員、吉村食改会長、大窪ボラ部会長)
聞き取り	(中野)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 8区 世帯数 1,043世帯 人口計 3,093人(男:1,508人 女:1,585人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼの持ち主がいない</li> <li>・農業の跡継ぎいない</li> <li>・結婚しない人も多い</li> <li>・5年後は更に一人暮らしが増え、60歳~70歳の方は親の世話をしている</li> <li>・障がい者世帯を中々把握できない⇒別に困っていない?か、隠したがつている?か</li> <li>・住民も自分と同じ世代の人とは助け合えている、近所づきあいが1番(活動について)</li> <li>・ボラ部会に新しい会員を増やしたいが、最近の人はギリギリまで働かれるので、退職する頃には身体が元気でなくなっている(現在78名登録)</li> <li>・70歳まで働いているので役員のなり手がいない</li> <li>・自分の住んでいる地区の公民館が遠く、他の町内の公民館の方が近かったりする</li> <li>・支え合い事業も公民館が遠い行きづらいため、空き家なども利用できたらいい</li> <li>・男性は人の集まる所に行きたがらない、付き合いがない ⇒若いうちから役員をすれば付き合いができる</li> <li>・現在の「支え合い」は良い取り組みだが縛りが多い</li> <li>・木曜カフェ75歳以上の人参加</li> <li>・男性の料理教室参加者が減ってきている</li> <li>・くろベネットがなくても自然に見守りが出来ている時もある</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員のなり手がいない</li> <li>・一人暮らしの人の安否確認の方法</li> <li>・台風の時など気軽に身を寄せる場がほしい</li> <li>・引きこもりや障がいを持った人の把握が出来ず、災害があった時の対応が心配</li> <li>・「困った」声があってもどこに言えば解決するか住民はわからないと思うので、公民館に目安箱の設置を検討 ⇒社協から他の地区の良い事例があれば教えてほしい</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や若い人を巻きこもうとする意欲がある</li> <li>・役員同士仲が良い</li> <li>・子供たちが卓球をしに公民館へ来る(子供が集まる場づくり)</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「困った時は公民館へ！」を徹底させたい</li> <li>・中高生の学習スペースとして公民館を使ってもらいたい!他の地区の子供たちにも</li> <li>・歩いている人に「元気?」と声を掛けられる地域にしたい</li> <li>・支え合いをもっとシンプルに、もっと気軽に住民で集まれる仕組みを取り入れたい</li> <li>・誰もがサロンのようなものに参加できるようにしたい</li> <li>・一人で居たい気持ちも大切にしつつ、人とのつながりも楽しいものと知ってほしい</li> <li>・日頃から助け合える人間関係を築いている人が多いが、人の輪の中に入って行くのが苦手な人の支援やつながり方を考えていきたい。</li> </ul>
まとめ	<p>これまで地域活動者として活躍してきた60~70代世代は、今後、定年も伸び、仕事や親の介護等が必要となり、地区においては、担い手問題を深刻に考えていかなければならない。子供と一緒に親世代も巻き込み、地域活性につながるようなしくみづくりが必要と考える。</p>



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月27日(月) 10:00~11:00
実施団体	村椿地区社会福祉協議会
人数	3名(大上戸地区社協長(兼自治振興会長)、村田ボラ部会長、島まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 6区 世帯数 955世帯 人口計 2,829人(男:1,389人 女:1,440人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状) ・人口は現状維持できており、世帯数が若干増えている。特に吉田地区に転居してくる方が多い。 (活動について) ・活動団体として、ボラ部会、慶寿会、更生保護、体協、農業委員、商工会、PTA、小学校、保育所、消防団がある。 ・7町内それぞれの色があり、行事は町内によって様々である。 ・1町内(荒俣地区)で、週1回支え合いサロンを実施し、30名くらい参加している。 ・ボランティアで配食サービス(おはぎ)を実施し、見守りを行っている。(年3回) ・ボランティア部会の会員数は微増している。退職者が多い。 ・集いの場に民生委員が参加し、困りごとがないか情報収集している。 ・婦人会は、若い人も半強制ではあるが関わっていたが、婦人会がなくなったことで、グループづくりが難しくなっている。 ・若い人が出る場がなかなかない。 ・地区行事として敬老会があるが、町内によっては敬老者が役員となって世話をしている。不満に思っている人もいる。 ・敬老会の声かけも町内によって様々である。地区によっては、婦人部、役員の妻が女性の役割部分を担っている。(吉田地区) ・慶寿会がなくなった町内(大開、六天)がある。リーダーの成り手が不足し、継続できなくなったことが要因である。 ・リーダーが不足し、職をいくつも重複している。 ・買い物が不便になってきている。車がなければ買い物にいけない。</p> <p>○課題 ・会員はいるが、役員になりたがらない。役員の担い手をどう育てるか。 ・トップに立つ人が少なくなってきている。リーダーとなる人材を育成(発掘)したい。</p>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化(荒俣地区:獅子舞保存会)が守られ、男性が中心となって活躍している。</li> <li>・男性の参加者がたくさん集まる活動が盛んである。</li> <li>・奉仕活動(荒俣海岸清掃、生地駅清掃等)が活発に行われている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支え合い事業を村椿地区全町内でできるように、理解者を増やし、民生委員だけでなく、住民全体で見守り、支えていきたい。</li> <li>・後継者をつくるために、若い世代に少しずつ意識を植えつけていきたい。</li> <li>・協力体制の強化、リーダーを増やし、新しいことにもチャレンジしていきたい。</li> <li>・一部の役員だけでなく、みんなで考えていける地域を目指していきたい。</li> <li>・遠慮なく集える場所が必要</li> </ul>
まとめ	<p>地域活動支援者が増え、地域支え合い事業にも積極的に取り組んでいるが、その一方でリーダーとなる人材の不足により、存続が難しくなっているものもある。今後は、若者の参加、出番を増やし、地域づくりをみんなで考えていき、将来を担う新リーダー、後継者を育て、つなぐことが大事であると考え。さらには、みんなが集える場づくりも検討していきたい。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月19日(水) 14:00~15:00
実施団体	大布施地区社会福祉協議会
人数	3名(松原地区社協長(兼自治振興会長)、島崎まちづくり推進員、藤澤民生委員)
聞き取り	(佐渡)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 10区 世帯数 2,211世帯 人口計 6,208人(男:3,124人 女:3,084人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口約6,200人で、近年、若者の移住者が増え18歳以下人口が1,220人、高齢化率も22%と黒部で最も低い。</li> <li>大規模小学校、大型店舗や基盤が通っていることから転入者が多く、人口は毎年増加している。現在も宅地造成が進んでおり、更に増加傾向にある。</li> <li>人口増減は、町内会間にばらつきがあり、増加4町内会、同水準で推移2町内会、減少傾向4町内会と格差が顕著となっている。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振興会では、重点目標を定め活動している。</li> <li>地区行事は、振興会、公民館との共催事業が多い。民生児童委員、老人会、体協、ボランティア、児童クラブ、保育所、幼稚園、女性団体等各種団体に呼びかけ、実施している。</li> <li>行事を通して地域住民の一体感の醸成、絆の進化に努めている。</li> <li>婦人会に代わり、振興会女性部約80名が各行事に係り活動している。</li> <li>「安心ポケット事業」、「くろベネット事業」、「避難行動要支援者事業」を民生児童委員、町内会長とは、定期的に会合や研修会を行い、課題の共有、知識の研鑽に努めている。</li> <li>毎月1回出前講座を実施している。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人材の育成、未来の活動者育成の場であった青年団等がなくなり、担い手の育成に苦慮している。</li> <li>地区役員は、任期(2年)が来ると一斉に交代する傾向にあり、活動の改善や発展に支障が生じている。</li> <li>地域福祉が多様化する中で、専門性に弱い部分があり、課題解決がうまくいかない場合がある。</li> <li>地域の実態を常に的確に把握する必要がある。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的に連帯感や絆が強い。また、転入者も気軽に地域に溶け込んでいただいております、行事への参加者も多い。</li> <li>各種団体との連携、協力関係が極めて良好である。また、各種行事への動員力が優れている。</li> <li>若者が比較的多く、総体的に活力ある地域である。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安心ポケット事業」、「くろベネット事業」、「避難行動要支援者事業」を更に充実させ、地域福祉活動の中核として進めていきたい。</li> <li>自然災害発生時、人的被害を最小限に食い止める体制づくりの構築。</li> <li>今後、各町内会間の人口格差や高齢化率が顕著になっていく。それぞれの町内会の実態にあった福祉施策を考えていく必要がある。</li> <li>外国籍の人が転入してきたときの対応</li> </ul>
まとめ	今後ますます重要かつ多様化する地域福祉を住民一体となって推進し、安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指す。更に高齢者も若者も元気で活気あふれるまちづくりを進めていきたい。これらの活動の中心となるリーダーの育成に全力を傾注したい。

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月20日(木) 11:00~11:50
実施団体	三日市地区社会福祉協議会
人数	4名(荻野まちづくり推進員、菅野ボラ部会長、中田美民生委員、谷口公民館長)
聞き取り	(佐渡)(高村彩)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 10区 世帯数 2,132世帯 人口計 5,323人(男:2,586人 女:2,737人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地域の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は右肩下がり(10年以上前は6,000人⇒今は5,300人)</li> <li>・子供も少しずつ減っている。三日市の寺町、栄町、東三日市の子は中央小へ行く。</li> <li>・家が建たない。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な団体はたくさんあるが、会員数は増えない、高齢化が進んでいる。</li> <li>・三島町は、若い人の参加が多い、昔からのやり方を引き継いでいて、40代の人が入れば友達も誘ってくれる。</li> <li>・25年間続く、お達者クラブでは、町内に住む高齢者と役員が楽しく活動でき、活動を通して、何かあった時の助け合いの関係をしてくれるよう心がけている。</li> <li>・お達者クラブでは、活動を一緒に楽しんでからご飯を食べていたが、受益者負担、食材系の活動が見直されていることで、「自分達がやってきたことは間違っていたのか?」と感じる。今後の活動を考え直さなくてはいけない。</li> <li>・学校型の座学だけでは役員も参加者も集まらなくなって、戸惑っている。ボランティアする楽しみ、集まる楽しみがあったのに、楽しみがなくなって運営が成り立たなくなっていく。やり方が変わってくるのも仕方ないけど、運営側の立場も考えてほしい。集まる事で何かあった時の助け合いの関係ができていた。</li> <li>・防犯ボラ(11町内、45人+各種団体、民生委員、振興会)は会員が増えない。魅力が少ない。仕方なしにやっている。4人1組で、その日の都合で柔軟に活動しているが、回る日と下校時間が一致するとは限らない。</li> <li>・ある程度の自由を設けて活動させてほしい。(制限が厳しくなるとボランティアのやる気がなくなる)</li> <li>・町内会からの補助金だけでお達者クラブをした方が楽という声も出ている。</li> <li>・民生委員の定例会の時に、各町内の悩み事を共有し、細かく地区社協に報告してくれる。長く続けられる人は、世帯の様子を把握している。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員は問題を1人で抱え込み、悩みを言えるはけ口がない。何でも気軽に話せる場が定例会以外にも必要ではないか。</li> <li>・孤独死があった時にどうしていけばよいか、地区の事務局として悩んでいる。</li> <li>・民生委員やチーム員に負担をかけないように、くるベネットをやらなくてもいいように、自然な形(お達者クラブやボラ活動)で住民同士のつながりをつくりたい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力者が多く、活気があって楽しい。</li> <li>・ボラ部会、民生委員など各団体の組織基盤がしっかりしている、連携しやすい。</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の時に車椅子の人を助けられるように大人向けの車椅子体験研修をしたい。</li> <li>・避難行動、経路の確認を町内単位でやりたい。</li> </ul>
まとめ	<p>世帯数は減ってきているが、市内では2番目に人口が多い三日市地区。町内単位の活動がそれぞれの町内で活発で、組織体制も確立され、連携がとりやすい関係性が保たれている。世帯は多いが、町内毎の年代別比率に差が出てきているため、支援する側の負担も、町内によって格差が出てきている。また、ボランティア活動においても、制限が厳しくなり、運営していく上で活動者のモチベーションが上がる場やしきみづくりを今後、全体で共有していく必要があると考える。</p>



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月7日(金) 10:00~11:00
実施団体	前沢地区社会福祉協議会
人数	3名(舟子地区社協長(兼自治振興会長)、杉本まちづくり推進員、朝倉さん(ボランティア前沢代表))
聞き取り	(佐渡)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 10区 世帯数 767世帯 人口計 2,361人(男:1,147人 女:1,214人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、男性ボランティア、女性ボランティア、食改(2名)、延楽会の4つの団体が活動している。延楽会は近年、減少傾向である。</li> <li>・地区の人口は、毎年数人単位で増えているが、全体で見ると横ばいである。</li> <li>・町内は全13町内あるが、中には5~6軒の町内もある。</li> <li>・保育所の子供は増えていて、前沢以外に大布施や田家野の子供達がいる。</li> <li>・小学校の統合により、小学校内に前沢の子供達が何人いるのか把握できていない。</li> <li>・小学校へはスクールバスも通っている。</li> <li>・未婚男性もちょこちょこいる。</li> <li>・現状、買い物難民は見られないが、将来的には困る人が出てくるだろうと思う。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア前沢(男性ボラ)では、週2回防犯青パト対として巡回している。各町内で動員し、集まらない場所は指名している。その他、除草活動や通学路の除雪活動なども行っている。(除雪隊5~6名)平均すると月2回ほどの活動している。</li> <li>・4つの町内で月一回、前山町内は週一回、サロン活動(体操など)を実施している。</li> <li>・今は活動出来ているが、次世代が担ってくれるかはわからない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市から補助金をもらうとなると報告や事務処理が大変であるという理由からサロンの解散につながるため、もう少し簡単にならないか。</li> <li>・団体の役員のなり手がなく、役員を決める時にもめることが多い。民生委員の選出も難しく、今後の大きな課題である。</li> <li>・若い世代に活躍してほしいが、60代はまだ働いていて、ボランティアに誘い込むのは大変である。また、60代~70代になると事務作業の大変さから拒否されることもあるので、事務作業が軽減できる方法はないか。</li> <li>・前沢カンナロードは、伝統ある活動でこの先も継続していきたいが、花壇の手入れ等、大変手間のかかる活動でもある。担い手も不足している中、今後どのように後継者につないでいけるか考えていく必要がある。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性ボランティアと女性ボランティアの関係が良い。</li> <li>・男性ボランティアの活動が活発である。</li> <li>・夏祭り、カンナロードは地域の人が多く集まる。(保育所、児童会を巻き込むと親、祖父母も来る)</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年後に担い手がゼロにならないよう、今のうちに声をかけている。</li> <li>・地域行事は若い世代や子供が集まる日に変更していくなど工夫していきたい。</li> <li>・地理的に難しいこともあるが、サロンを全部の町内でやりたい。</li> <li>・無理なく、難しくない方法で補助をもらって活動を続けやすくしたい。</li> </ul>
まとめ	<p>青パト対やカンナロード等、地域に根付く活動を今後も継続していきたい思いが強い前沢地区。そんな中、活動への協力者、参加者は多いが、役員のなり手がいないことが今後の不安要素であり、大きな課題であった。無理なく、難しくない方法で活動を継続していけるような人づくり、しくみづくりを考える必要がある。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月20日(月) 13:30~14:30
実施団体	荻生地区社会福祉協議会
人数	3名(松島地区社協長(兼自治振興会長)、大辻副会長、結城事務補助員)
聞き取り	(浜松)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 12区 世帯数 1,184世帯 人口計 3,365人(男:1,628人 女:1,737人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会長は2年で変わるので、地区で聞いてきたことを町内単位でしっかり伝達して行ってほしい。</li> <li>・月に1回の地区活動で様々な事業を行っている。地区活動には民生委員も多く関わっており、民生委員活動にもつながっている。</li> <li>・地区行事に、福寿会(老人会)、ボラ部会、女性の会、PTAなどに協力を呼びかけ各種団体と協力して行事を進めている。</li> <li>・くるベネット事業の移行もスムーズにでき、それによって町内会長と民生委員との連携も良くなっている。</li> <li>・防災の関係も、分団ごとに集まって決めて動いている。</li> <li>・地域課題を解決するために、それぞれの民生委員の抱えているケースを共有するように心がけている。</li> <li>・民生委員の情報は、地区社協、町内会長にその都度伝えている。</li> <li>・リーダー間での連携がとりやすく、お互いが聞きやすい環境づくりを大事にしている。</li> <li>・順番制のものには、必ず若い人に参加してもらえるよう工夫している。</li> <li>・地区での経費は、企業に寄付金を募っている。(荻生地区の広報に掲載)</li> <li>・子供のみこし、祭りの維持に地区から助成している。</li> <li>・「地域支え合い事業」は、お金の使い方に制約があるため、行う予定はない。毎週は厳しい。</li> <li>・月1回の集いは地区からの助成で賄えている。</li> <li>・地区社協と民生委員との情報交換会を年に1~2回実施し、交流を図っている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活発に動くリーダーがいなくなった時のことも見越していく必要がある。</li> <li>・ボランティアのリーダー的な人の育成が困難。後継者づくりをどうするか。</li> <li>・任意のものに関わる人が減っていて声かけが難しい。どのように継続していくか。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、民生委員、町内会との連携がとれている。</li> <li>・活発なリーダーが多く、新事業への取り組みがスムーズに行われている。</li> <li>・地域支援者同士が集まる場、話す場をつくり、情報共有できるしくみづくりができている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい町内単位で支え合っていく意識づけをしていきたい。</li> <li>・少しずつでも課題を見つけ、解決に向けて模索しながら進んでいきたい。</li> <li>・若い人の参加、後継者(担い手)が育つことを願う。</li> </ul>
まとめ	地区社協、民生委員、町内会との連携体制の構築に努め、小さな町内単位で支え合っていける地域づくりへの取り組みが進んでいる。今後は後継者の育成、後継者にバトンをうまく渡すためのしくみづくりが必要であると考えます。

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月25日(月) 16:00~17:00
実施団体	若栗地区社会福祉協議会
人数	2名(平野地区社協長(兼自治振興会長)、吉野まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 10区 世帯数 738世帯 人口計 2,185人(男:1,058人 女:1,127人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線通ったが、人口は増えてはいない</li> <li>・黒部宇奈月温泉駅が出来たことでタクシーの利用が増えた</li> <li>・地区に個人情報を探求してくるが、こちらには情報がない</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアとして様々な場面で活動されているが、年齢が低くなることはない</li> <li>・行事には若い人達も参加する、子供を連れてきてくれる</li> <li>・松桜閣をある程度引き継ぐ人がいないと…</li> <li>・行事に出る人は同じ顔触れである</li> <li>・敬老会対象者が300名いる⇒対象年齢を少しずつ上げてほしい</li> <li>・子供たちや若者世代にお金を使いたい</li> <li>・災害時のペットの問題など、災害に対する具体的な備えを振興会で準備するべきではないか</li> </ul> <p>(くろベネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所へ行けばわかることを民生委員に調べさせることに疑問を感じる</li> <li>・地区内での情報共有をもう少しがんばる必要がある</li> <li>・共有する仕組みを作してほしい</li> <li>・外部から引っ越ししてきた人と会う機会が少なく、誰なのかわからない</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線駅ができたが、賑わいを感じないので周りをもっと賑やかにしてもらいたい</li> <li>・新幹線駅できてタクシーの利用客が増えたので、ロータリーを開放してほしい</li> <li>・若い担い手を育てていかななくては</li> <li>・災害が起きた時の行動マニュアルがほしい</li> <li>・社協、福祉課、健康増進課…色々あってわからない?わかりやすくしてほしい</li> <li>・補助金をもらうためにプレゼンテーションは必要か、そうではなく逆だと思ってお金をもっと使いやすくしてほしい</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動が盛んである</li> <li>・行事に若い人たちの参加が多い、子供もたくさん参加してくれる</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはない若栗の良さを伸ばしたい</li> <li>・人口が減ってきているので、それに併せて行事の見直しを検討していきたい</li> <li>・安心して暮らせる町づくりを目指すことが人口増につながる</li> <li>・若栗独自で「若栗ネット」でやろうと考えている</li> <li>・放課後児童クラブを改善し、誰一人断らない</li> </ul>
まとめ	<p>新幹線駅を中心に、益々地域活性化に努めていくために、地区独自の活動に力を入れていきたいと考える若栗地区。特に子育て環境の充実を図り、子供たちや若者世代が住みやすさを感じる町づくりを目指している。また、駅周辺の賑わい不足を感じ、市に対して周辺の整備、活性化を求める声も上がっている。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月28日(金) 10:00~11:00
実施団体	東布施地区社会福祉協議会
人数	2名(谷島地区社協長(兼自治振興会長)、澤田まちづくり推進員)
聞き取り	(佐渡)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 12区 世帯数 379世帯 人口計 1,123人(男:554人 女:569人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は減少している⇒5年後には1,000人を切る可能性</li> <li>・子供は地区全体で小中併せて80人ほど →スクールバスなので子供が歩いている姿は見ない</li> <li>・学童を田家に統合させたことで、東布施の子供達が使いにくくなってしまった学童にはほとんど行っていない</li> <li>・田家保育所に通っている子供もいるため、東布施保育所もなくなるのでは…</li> <li>・町内会長交代の時期は特に決まっていないが、2年に1回は交代している</li> <li>・毎週金曜日に小学生を対象に公民館で囲碁教室を行っている</li> <li>・尾山地区は支え合い事業が続いている(スタッフ13名) ⇒来れる人が来るというスタイルで実施している</li> <li>・買い物支援でセブンイレブンが定期巡回しているが、山手の人は昔から生活スタイルが確立されているため、意外と利用していない(家族が週末来てくれる等)</li> <li>・同じ東布施ないでも上と下で考え方が違う</li> <li>・くろベネットが始まる以前から見守り活動は行ってきた。なぜ今更記録が必要なのか…</li> <li>・防災訓練を行っているが、集合場所まで来られないこともあるので、町内単位で拠点を設けて行いたい</li> <li>・災害時の意識があまりないので、各町内会長がしっかりと住民を把握しておくよう呼びかけている</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の見守りが出来なくなってきている</li> <li>・池尻、田糶、福平は12町内あるが、廃村の危機があり、そういう地域の見守り、災害時の対応をどうするか</li> <li>・桃井さん(Dr.)も高齢なので心配</li> <li>・今行われている行事などが5年後に出来るのか…?市の体協は将来のことを考えてくれない</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が少ない分、安否確認が取りやすく、福平は公民館に住民がすべて避難できる</li> <li>・コンパクトな分、他の地区よりはコミュニケーションが取りやすく、行事への協力、参加率も高い。市内で1番かも</li> <li>・山に囲まれているため、静かで落ち着ける、海も見える</li> <li>・住民同士の横のつながりが強い</li> <li>・桃井さん(Dr.)の存在、送迎もしてくれるので安心</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすい行事の内容にしていきたい(地域の実情に合わせた内容)</li> <li>・若い世代が増え、考え方が変わってきているが、人と人のつながりによって引き受けてくださるので、この関係性を継続していきたい</li> </ul>
まとめ	<p>小さい地区ならではの良さが多く、地区単体で見ると連携もとれ、人と人とのつながりが深い東布施地区であるが、縦に長い地形であるがゆえに、山手と下側の距離も長く、生活環境、生活スタイル、考え方の違いが大きい。学童は合併することで不便になり、また、廃村の危機がある町内や、市全体の行事参加等、このままでは存続が難しいと思われる様々な課題に直面することが予測される。課題解決手段を地域のみならず、市全体で考えていく必要がある。</p>



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月26日(水) 11:30~12:30
実施団体	宇奈月地区社会福祉協議会
人数	4名(河田自治振興会長、坂井地区社協長、富川まちづくり推進員、大森事務補助員)
聞き取り	(小倉)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 5区 世帯数 280世帯 人口計 439人(男:215人 女:224人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの人が老人会に入っている</li> <li>・子供の数も減少し、高齢化率は高い</li> <li>・小さい町なので、どこに誰がいるかがわかっている</li> <li>・声掛けも、玄関先で呼ぶだけでなく部屋の中まで入って行って声を掛けてくる</li> <li>・町内会に入っていない人も多い(旅館の従業員などはわからない)</li> <li>・予算について、会員数の減少に伴い減ってきている</li> <li>・観光客もトロッコの旅行客は年々減っている⇒料金が高いと感じる</li> <li>・湯快リゾートが出来たので少しにぎやかになっている</li> <li>・自立塾との連携、旅館への雇用などはあるが地域活動への関わり、振興会への接触はない</li> <li>・「公園を愛する会」について、業者に委託して清掃している</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉街で働く人に関しては、人の出入りが多く把握していない</li> <li>・リーダーの担い手の問題、担い手を維持していくにはどうしたらよいか</li> <li>・事務量が増え負担が多い、市社協、行政からの要望が多い</li> <li>・合併するとこれまでやってきた地域活動はどうなるのか</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい町ながらの強みがたくさんある</li> <li>・新しい人の新しい視点を取り入れることができる</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が現在のリーダーのようになってくれているのか?不安</li> <li>・もっと地区全体が賑やかになってほしい</li> <li>・「こうなってほしい」という思いはあるが、具体的にどうしてよいかわからないので司令塔となる人の力でもっと賑やかな町づくりを目指していきたい</li> <li>・主事の負担を考えるならば、司令塔が必要</li> </ul>
まとめ	<p>小さい町で住民同士の関係性が深い反面、観光地という地域柄、旅館雇用者等は把握しきれず、地域活動への関わりも薄い。しかし、新しい人の新しい視点を取り入れていける関係性を築くことで、新たな地域づくりの実現につながると思う。</p> <p>人口が減少し、高齢化が進む中、地域活動者の負担が増え、担い手の維持が大きな課題としてのしかかる中で、司令塔となる人(コーディネーター)を要し、様々な意見を聞きながら、もっと賑やかな町づくり、観光地を目指していきたい。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月11日(火) 14:00 ~ 15:00
実施団体	音沢地区社会福祉協議会
人数	5名(佐々木地区社協長、佐々木自治振興会長、島崎まちづくり推進員、佐々木さん、佐々木きそえさん)
聞き取り	(小倉)(駒田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.7月末現在】	行政区 2区 世帯数 92世帯 人口計 201人(男:99人 女:102人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働いていない人がいる。(生活保護をもらっているかはわからない)</li> <li>公民館の場所が新しくなり、高齢者の方にとっては遠くなってしまった。今年の猛暑のようなときに歩いてきてもらうのは心配である。</li> <li>一人暮らし高齢者の対応が困る。認知の方で夜中騒いだり、徘徊したり、どこまで踏み入っていいのかわからない。何かあれば包括や警察へ連絡するようにしている。</li> <li>病院や買い物などは電車を利用しなければならず、また駅までも遠いために不便である。</li> <li>老人福祉センターへはバスでないと行けないため、利用者が少ない。また、宇奈月の総湯は電車賃が高い。</li> <li>今年の冬も消雪から水が出なかった。高齢者の方の生活にも影響するので何とかしてほしい。</li> <li>事業の報告書が多い。行政と社協と同じ様な内容のものを作成しなければいけない。そのため行政と社協の事業で必須項目などは同じ参加者に、似た内容を複数回確認しなければならない。</li> <li>区の単位がないので、事業の参加者はいつも一緒である。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らし高齢者の対応について、どこまで関わっていけばよいか。</li> <li>行政と社協事業で重複している部分が多く、もう少し効率的な形をとれないか。</li> <li>移動手段がない、少ない、移動する費用がかかる。(買い物、病院、福祉センター、総湯など) 利便性の高いものがあるとよい。</li> <li>生活課題(消雪がでない、買い物)</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>何か困りごとがあればすぐに情報が入り、地域で対応できている。</li> <li>災害時については、地区の住民の把握ができています。</li> <li>日中に近所の人と会って話せば、新しい情報が入ってくる。</li> <li>地区では見守りの対象者となる人の生い立ちから知っており、現状も把握できている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい公民館が地域の人が集う場となればよい。</li> <li>老人クラブと連携して事業を行っていきたい。(65歳以上の事業)</li> <li>買い物支援に力を入れたい。(買い物バスや移動販売の充実など、市社協からも助成金があればいい。社協のワゴン車等利用できればいい。)</li> <li>一生涯活動できる場が地域にあるといい。</li> </ul>
まとめ	<p>高齢人口が多い音沢地区における1番の課題は、交通の便が悪く、車に乗れない高齢者の移動手段がほとんどないことが上げられる。そのため、行動できる範囲が狭く活動に参加できる人も限られている。拠点となる公民館が新しくなったことを機に、交通手段に対する利便性がもう少し改善されれば、事業参加者も増え、地域活性につながると考える。さらに、地域住民の行動範囲が拡大されることによって、地域支援者と一人暮らし高齢者、高齢世帯との関わりも益々手厚くなると考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月11日(火) 15:30~16:30
実施団体	内山地区社会福祉協議会
人数	2名(竹山地区社協長(兼自治振興会長)、松平まちづくり推進員)
聞き取り	(小倉)(駒田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 5区 世帯数 207世帯 人口計 453人(男:204人 女:249人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区人口が減っている。不安である。</li> <li>・地域住民について、若い世代の人が十分把握できていない。</li> <li>・これまでは、自治振興会と地区社協つながっていなかったが、今年から会長が兼務することになり、今後はつながりを強めていきたい。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人や男性の行事参加が少ない。</li> <li>・参加する人が決まっている。</li> <li>・地域でのつながりのために行事を設定しているが、参加者が少ない。</li> <li>・とちの実の継承者が内山になくなってしまう。</li> <li>・このままでは、伝統の継承ができない。</li> <li>・ヤンバイ映画の参加者が少ない。</li> <li>・週2回ほど魚津の魚屋さんが移動販売で地区を回っており、その待ち時間に地域の人の集まっておしゃべりをしている。まちづくり推進員も時々顔を出し、声かけを行っている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士のつながりを目的に地区での行事を設定しているが、参加者が少ないのが現状1番の課題である。公民館行事等での参加者を増やす方法や、行事の内容や参加者を募る方法を知り、人が集まる活動にしていきたい。</li> <li>・若い世代への交代を考えているが、若い世代の参加に向けてどう取り組むか。</li> <li>・事業の講師について、情報が不足しているため、新たな情報がほしい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりがあり、家族構成などの住民調査を行ったことで、住民の情報はおよそ把握できている。</li> <li>・空き家の情報も把握できている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの活動をさらに充実させる。</li> <li>・地区の垣根を越えて連携して行事をしていく。</li> <li>・公民館にたくさんの方が来てほしい。</li> </ul>
まとめ	<p>地域のつながりが強く、住民の情報網ができているが、一方で、若い世代の把握が十分できていないことから、行事参加のみならず、伝承文化の継承にも大きな影響をもたらす恐れが現実出てきている。この課題を解決していくために、地区の垣根を越えて活動を連携していくという新たな発想を展開し、事業範囲や参加対象者の輪を広げ、地域の活性化につなげていきたいと考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る

ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月18日(火) 10:00~11:00
実施団体	愛本地区社会福祉協議会
人数	3名(立野地区社協長、平澤自治振興会長、橋場まちづくり推進員)
聞き取り	(小倉)(駒田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 (H30.9月末現在)	行政区 9区 世帯数 287世帯 人口計 713人(男:329人 女:384人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者名簿の作成について、民生委員だけではなく地区防災会長で検討した方がよいのでは(地区ではこの人が?という声がよく聞かれる)</li> <li>・施設入所者の把握ができていない。(施設、社協、福祉課、地区との連携が必要)</li> <li>・名簿作成について、市役所と社協で提出する書類やデータなどを一本化してほしい。</li> <li>・地区社協と振興会とで合同で会議が行われるようになってきている。</li> <li>・振興会の組織の中に地区社協があるというように組織化していけばスムーズなのでは</li> <li>・地区防災訓練で名簿と地区で選んだ人とすり合わせを行う予定。</li> <li>・くろベネットの対象者と避難行動要支援者の対象者の名簿を一本化してほしい。(災害時とくろベネットの名簿が食い違うところがある)</li> <li>・現在75歳以上の一人暮らしの全てくろベネットが対象者になっているが、民生委員や町内会長で対象者をすり合わせてほしい。</li> <li>・公民館で働いている人の事務処遇を改善してほしい。(勤務時間、給与、職員採用など)</li> <li>・介護予防に力を置いているため~教室という身構えしてしまい参加が少ない。以前のようにお楽しみの要素も取り入れやすいようにしてほしい。</li> <li>・支え合い週1回という頻度が多すぎて取り入れられない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々参加者が減り、参加していた人が年老いて参加できなくなってきている。一方で、参加するだろうと思っていた人が元気で忙しく参加しないという現状である。昨年度と同じ事業内容でいいのかと感じつつ、事務量が多く、事業に対して深く考える時間がない。良い地区の事例があれば教えてもらおう機会があるといい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会で民生委員と地区会長が集まれば、住民のことはほぼ把握できている。</li> <li>・地区で10年ほど前に安否確認リストを作成している。</li> <li>・高齢化が進んでいるので、振興会の事業=社協の事業で予算付けしやすい。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りが元気な地域へ視察に行き、地区に取り入れたい。</li> <li>・お年寄りが生き生きと楽しく過ごすための事業をやっていきたい。</li> <li>・公民館に来てもらうだけではなく、自宅へ何うスタイルの事業やサービスがあればいいのでは。(見守り員の意識向上にもなる)</li> <li>・事業について、実際に利用している人、サービスを受ける人へ市社協がアンケートや聞き取りをしてはどうか。その結果を地区へ提供して内容を見直す。地区社協が行くと立て前しか言わない。</li> </ul>
まとめ	<p>民生委員と地区社協の連携が強く、住民のことはほぼ把握できるという大きな強みを持つ愛本地区。時代の変化とともに、新たな事業展開が必要と感じ、そのための学ぶ意識も高く、高齢者が楽しく過ごせる事業を積極的に取り入れていきたいと考える。新たな取り組みに向け、市や市社協における事務作業の効率化が図られることも期待している。</p>



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月10日(金) 10:00~11:00
実施団体	下立地区社会福祉協議会
人数	3名(此川地区社協長、柳原副会長、佐々木まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 5区 世帯数 403世帯 人口計 1,051人(男:497人 女:554人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな課題はない。くろベネット事業についてもこれまで取り組んでいたことの継続と捉えている。</li> <li>・くろベネット事業により、民生委員と地区社協の連携が強化され、今までなかった情報が地区社協におりてくるようになった。</li> <li>・民生委員が頑張っている。対応が細やかでコミュニケーションが取れている。</li> <li>・くろベネットで新しくチーム員になられた方を集めて進め方を話しする場があれば楽になるのでは</li> <li>・組織としての状況が分からないままだと不安も大きい。情報共有の場があればいい。</li> <li>・相談してもらわないとわからないこともある。ただ、相談せず隠される。相談する場所、相談しやすい場、気軽に伝えられる場、話せる場が必要。</li> <li>・行事への参加、皆協力的。清掃等、各種団体(15~16団体)に声をかけているが、男女問わず協力してくれる人が多い。</li> <li>・責任感が強い人が多い=良いところ=堅苦しいところ=担い手不足につながる</li> <li>・役員の任期が2年だから頑張れる。役員になると責任感も出てくる。</li> <li>・青年は祭りがあり、伝統を守る強い思いがある。メンバー確保にも真剣で、花代等全家庭における経済的援助もある。</li> <li>・子供はあまり増えていない。若い人にも頼みたいが、年をとった人は年をとった人に頼みがちの傾向にある。もっと若い人に浸透させていかなければ…</li> <li>・女性の会の存続が難しくなっている。</li> <li>・防災についての話し合いが活発、地区の中で体制強化されてきた。</li> <li>・冬に水災害があったが、市は災害という意識がなかった。市として災害の窓口を一本化してほしい。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8050問題が心配。地域で気になる方が今後少しずつ増えていく中で、人に言いたくない人もたくさんいると感じる。何でも話せる場づくりを考えていく必要がある。</li> <li>・除雪や雪捨て場の問題に対する対応策</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけたら協力してくれる人が多い。</li> <li>・祭りをもとに地域が団結している。</li> <li>・伝統を守る、残す気持ちから青年団が活躍、OBも手伝い、役割分担ができています。</li> <li>・顔が見える関係が完成されている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い力に期待、活動や福祉への理解を促していくことが大切。仕事もあり、協力が難しくとも、知る事が大切。情報共有し、活動の実際を知る事で賛同者が増えるのではないかと考える。</li> <li>・若手の育成に取り組みたい。若い世代の理解と関わりが必要。</li> <li>・「最後は地域」リーダーとして若者を引っ張っていきたい。</li> <li>・民生委員の協力が大切と実感、役割分担、女性リーダーの活躍に期待する。</li> </ul>
まとめ	<p>地域の特徴、伝統文化を通して若い世代と協力し、地域を守る体制づくり、つながりのある地域づくりが築かれている下立地区。今後も世代や性別問わず、協力しあえる関係性を保ち、特に若手の育成に力を注いでいきたいという思いが強い。そのためにも、情報共有できる場づくりを提供し、協力者、賛同者を増やしていきたいと考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月12日(木) 13:30~:14:30
実施団体	浦山地区社会福祉協議会
人数	4名(神子地区社協長、沢田自治振興会長、新保民生委員、岡田まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(森田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 10区 世帯数 769世帯 人口計 2,289人(男:1,096人 女:1,193人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口、世帯数は5年前に比べて少しずつ減少している。</li> <li>・50%を超える高齢化率の区もあれば、若い人が多い区もある。</li> <li>・地域おこし協力隊が県外から空き家を探しにくる。最近も1軒引っ越ししてきた。</li> <li>・常会長から世帯数が増えると公民館に情報が入る。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命のポケットにより、住民の見守り意識が高くなってきた。</li> <li>・防災訓練を毎年行っている。</li> <li>・寄付・振興会と地区社協にも協力してもらい、町づくり安全防犯パトロール車が10月に立ち上がる。</li> <li>・主事の防災意識が非常に高い、強い。</li> <li>・日頃から連携が強い。細かい情報がすぐ入ってくる。</li> <li>・日頃の行動、担い手として民生委員以外に福祉連絡員(4年目)が要支援者宅を訪問している。日々の様子の変化がわかる。</li> <li>・民生委員がよく動いてくれる、頑張っている。</li> <li>・お祭りが春と秋の年2回開催される。</li> <li>・150年の歴史をもつ相撲大会が毎年お盆に開催され小中学生が参加する。浦山相撲協会がある。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常会長が2年で交代のため、くるベネットや災害時避難コード要支援者を理解してもらえるまで時間がかかり、理解した頃にまた交代となる。しかし、経験者が増えることは良いことであるため、スムーズに引き継いで行けるしくみがあればよいのでは。</li> <li>・3つの道路の横の行き来が出来ない、そのことが原因で連絡がとれないこともあるため、道路整備が必要と考える。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加は活発である。</li> <li>・イベント等は女性の参加が多い。</li> <li>・男性は組織的なことに関して協力的である。</li> <li>・声をかけるとすぐ助けてくれる、協力してくれる人が多い。</li> <li>・公民館は情報の集積場所である。(1番の強み) (来館者)旧公民館 3,000人/年、新公民館 10,000人/年</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心に暮らせる町を目指し、環境整備をしていく。</li> <li>・急に変わるのではなく、自然に変化し、良くしていける町づくりを進めていく。</li> <li>・1人暮らしの把握はしているけれど、2人暮らしに対する働き方に目を向けていかなければならない。</li> <li>・物、人材は豊富である。それを継続的にリーダーの担い手づくりをしていかなければならない。</li> </ul>
まとめ	<p>伝統ある地区行事や命のポケットの取り組み、防災意識が強く、子供からお年寄りまで、皆が安全で安心できる暮らしづくりに積極的に取り組む浦山地区。新しいことへの取り組みも積極的で、今後はこの活動を継続していくための担い手づくりに目を向け、より発展したまちづくりを目指していきたいと考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年7月23日(月) 18:30~19:30
実施団体	黒部のとびら(移住者)
人数	8名(男性6名、女性2名)
聞き取り	(小柴)(高村千)
実施方法	1グループでの聞き取り
概要	県外から黒部市に移住してきたメンバーが気軽に集い、情報交換し合える場として発足された会である。市内に定期的に集まって懇親を深めている。
ヒアリング内容 [移住者からみる黒部]	<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい家(空き家)はあるが、古民家ではなく、増築が繰り返されていたり、広すぎてごちゃごちゃしていて住みにくい感じの家が多い印象を受けた。</li> <li>・自然やいいものしかないが、使い方がもったいない。</li> <li>・水が美味しいのにPR不足、暑い日でもかき氷のお店が1軒もない。</li> <li>・観光資源がたくさんあるが、観光客向けではない。資源をうまく使えていない。</li> <li>・閉鎖的で、個人ビジネスになっている感じがある。</li> <li>・「みんなでやろう」ではなく、かくまっている感じがある。</li> <li>・挑戦する人が少ないと感じる。</li> <li>・黒部は意外におもしろくなかった。</li> <li>・市も移住者にもっとスポットをあてて情報発信をしていけばいいのでは</li> <li>・子供がいないと地域とのつながりがあまりもてない。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水、食べ物が美味しい。</li> <li>・山がきれい、四季を感じられる。</li> <li>・景色や自然に魅了(夕日、田んぼ、虫等)</li> <li>・海が近く、釣りが楽しめる。</li> <li>・人口が少ないが公共交通が発達している。</li> <li>・安心、安全な暮らしができる。</li> <li>・おすそ分けの文化がある。</li> <li>・気さくな人が多い。</li> <li>・近所の方が分かる。密接な関係を築ける。</li> <li>・たくさんの方の価値観で子育てができる。</li> <li>・転勤を10回以上してきたが、ここが一番いいと感じる。</li> <li>・子供が生き生きとしている。</li> </ul>
これから [5年後の黒部] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年後は、今以上に人口の分布が市街地よりになっていると思う。</li> <li>・背骨道路と国道8号の沿線が整備されている。</li> <li>・ニッチな隙間産業を</li> <li>・移住者が増えて、コミュニティーも広がっていい。</li> <li>・移住ブームもひと段落して、利用スポットができ、賑わうのでは</li> <li>・楽しくのんびり交流できる場所をつくっていきたい。</li> <li>・黒部は全体的に豊かと感じているので、交流を促すことをしていきたい。</li> </ul>
まとめ	黒部が持つ自然環境、地域環境のよさをもっと前面に出し、県外の方に対して、魅力が感じられる町づくりを市全体で目指していく必要があると感じる。また、移住者が交流できるコミュニティーを今以上に広げていけるよう、今後も積極的に取り組んでいきたいと考える。

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月30日(木) 9:15~10:25
実施団体	NPO法人 宇奈月自立塾
人数	1名(牟田理事長)
聞き取り	(小柴)(高村千)
実施方法	代表者に聞き取り
団体概要	不登校児童・生徒及びその保護者並びに生活困窮者に対して、不登校やひきこもり等の青少年問題並びに生活困窮者に関する活動支援を行い、子どもたちの健全育成、社会的自立及び生活困窮者への社会的自立支援に寄与することを目的としているNPO法人。市内で、いしかわ若者サポートステーション、宇奈月自立塾を運営している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団塊世代の引退に伴い、有効求人倍率が上がり、就職はよくなったと感じるが、産業が豊かになっているとは感じない。見過ごされている人も増えてきている。</li> <li>・サポステでの支援対象者の年齢は10年前と比較して引き上げられ、現在15~39歳までの方を支援しているが、40歳を超えると対応ができない。ただ、現実には就職氷河期世代(37~58歳位)の対象者が増えており、さらにその上の年代のひきこもりの支援対応が社会全体ですべてできていない。</li> <li>・支援者の割合は、県内と県外で半々で、就職支援、生活支援者が黒部に定住し、そこから人口増につながることも考えられる。</li> <li>・相談したくても、役所には行きにくい。気軽に相談にいける場があればいい。</li> <li>・サポステの認知はまだないと感じる。もう少し知ってもらいたい。</li> <li>・富山県は他県に比べて豊かであり、触れる所が少ないことも支援者が増える1つの要因と考える。生保を受けているのに家があることは、他県ではあまりない。</li> <li>・経済格差ではなく、意識格差と感じる。</li> <li>・現在は昔と違い、外に出なくても生活できる環境であるため、外に出る機会が少なくひきこもりが見極めにくい。豊かだからこそパラサイトできる社会になってきている。</li> <li>・昔は障害をもっていても家から出さない家族が多かったが、現在は早い段階からグループホームに入ったりして、親がいなくなっても社会で生きていけるように支援していける環境になっている。ただ、ひきこもりに関しては見せられない傾向にある。お金で解決しようとする親も10%くらいいる。</li> <li>・お金に関して言えば、税金を安くしてほしい。会費で成り立っているが生活困窮や児童養護者が増えてきていることから、会費も減ってきている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援した(社会に出た)後の支援をしていくこと</li> <li>・スタッフが足りない、マンパワーが足りない、若手(20~30代)支援者の育成、学生時代に意識を持つことが必要。年齢によってキャリアが変わってくるので、ノウハウも引き継いでいきたい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が自立していくことが1番の報酬である。</li> <li>・苦しいけど社会的にがんばってくれる人間になってくれることが願い</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の貧困は親の貧困が問題、生活困窮や片親家庭の子供達にも教育の機会、スポーツの機会、食事する機会等、幼少期からの格差をなくし、機会の平等を考えていきたい。</li> <li>・生活資源(水や電気)が循環しているのと同じで、社会に出て一度ドロップアウトしてもまた社会復帰できるよう、人に対しても再生のまちづくりを目指していきたい。ひきこもりくらいなら宇奈月にきて支援を受け、そこから若者の定住につなが、そういうことも移住施策の一環となればと考える。</li> </ul>
まとめ	豊かな時代になっている反面で、社会的課題は複雑化してきている。それに伴い、社会で適応できる能力が不足している方への支援も増えてきている。マイノリティー支援をどのようにしていくか、労働力の確保や移住施策の一環につながる支援を目指していく。人も暮らしも循環していくことが大切



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年10月2日(火) 16:00~17:45
実施団体	富山県立桜井高等学校 元生徒会執行部
人数	2名(横田さん:村椿在住、本波さん:浦山在住)
聞き取り	(小柴)(高村彩)
実施方法	1グループでの聞き取り
概要	黒部市在住の桜井高校3年生(元生徒会執行部)に、広報誌「福祉くろべ」の特集の取材を依頼した中で、現役高校生が感じる地元のよさ、近所づきあい、将来、高校生の実態、今黒部に必要とを感じるもの等を聞く
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方とは会う機会が少ないが、パトロール隊の方に挨拶をしたり、ちょっとした会話をする事はある</li> <li>・小学校の時からパトロール隊が同じの方なので、挨拶は良くする</li> <li>・自分が小さい頃から、安全に通学できるよう見守りをしてくださっていてとても感謝している</li> <li>・中学生の時、委員会であいさつ当番をしていたけど、パトロール隊の方は暑い日も寒い日も早くから立っておられ、すごいと思った</li> <li>・小学生の時、学校帰りに祖母の家に寄ってから帰っていたが、当時は祖母の交流ある近所の方にもよく遊んでもらっていてうれしかった</li> <li>・一人暮らしの祖母は近所の人とよく交流していて、今後、一人暮らしの高齢者が増えてきたら、危険を察知できるのは親戚よりも近所の方が早いと思うので、普段からの付き合い、たまのおしゃべりは大事だと思う</li> <li>・基本的に高校生は地域のつながりは意識していない、違うことで頭がいっぱい</li> <li>・地区の行事、例えば運動会は小学生までしか呼ばれない</li> <li>・福祉のイメージは、老人ホームや介護、障がい者の働く施設というイメージが強い</li> <li>・福祉センターのイメージは高齢者施設だけど、そこにwifiやカフェがあれば行くかもしれない</li> <li>・高校生は、遊び場よりも携帯をいじる場が必要、体を動かすより携帯をいじる</li> <li>・施設よりも何かできる環境に集まる</li> <li>・インスタに載っている情報や、友達からの情報で行動に移すことも多い</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニが遠く不便</li> <li>・自転車通学ができない時にバスを利用してしたが、バスは不定期で、バス停からも徒歩15分かかる環境である⇒年をとって車の免許がないと生活しづらいと思う</li> <li>・学校が少ない⇒小学校から電車通学で、学校まで遠く不便であった</li> <li>・遊ぶところが少ない、最新プリ機は富山市に行かないとない⇒インスタに上げる子が多いので最新のものがもっと近くにあればいい(自己満足の世界ではあるが)</li> <li>・Wifi環境を整えてほしい⇒そしたら必然的にそこに人が集まると思う</li> <li>・黒部には無料で気軽に集まれる場が少ない</li> <li>・交通手段、電車の本数が増えてほしい</li> </ul>
良いところ	・災害が少なくていい
これから 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたいことが県外でしか学べないこと(義肢装具士)だったので、県外に1度出て、また戻ってこようと思う</li> <li>・外に出て色々な言語、習慣の違いを感じ、地元の良し悪しに気づくと思う</li> <li>・出てみないとわからない、そこから地元に戻るかどうかを判断したい</li> </ul>
まとめ	比較するものがなければ、地元の良し悪しも感じにくいという意見は妥当であり、その経験によって、地元愛や地域愛が生まれてくるものだという考えは自然なものであると考える。しかしながら、小さい頃から、近所の方の活動に触れることは、印象に残り、その記憶や体験が大きくなって少なからず活かされるのではないかと、今の活動者に直接的な恩返しはできなくても次世代につないでいけるのではないかと、世代問わず近所の方と触れ合う機会をつくることは、次世代に地元の良さを感じてもらえるための一つのツールになることは間違いないと考える。

◎ 地域型ボランティア活動支援者ヒアリング調査報告書（一部抜粋）

地区名	①地域活動（活動支援者）の実態	②じぶんの地区のこれから（不安・課題）	分類	③じぶんの地区のこれから（ありがたい姿）	分類	④自団体の良いところ
生地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ボランティア部会の他5団体が活動</li> <li>・介護予防やふれあいランチなど行っている</li> <li>・バス送迎があるものは喜ばれている</li> <li>・各ボランティア団体の活動に地区の方も関わりを補助してくれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者、担い手がいない</li> <li>・取り組みが多く大変</li> <li>・活動への理解がない</li> <li>・活動手段がわからない</li> <li>・参加する足がない</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい人に入ってほしい</li> <li>・活動者の発表の場があればいい</li> <li>・団体が集まる機会があればよい</li> <li>・ボランティア実施者の声を聞く機会があればよい</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で仲良し</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> <li>・参加できるところがある、生きがい</li> </ul>
石田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の高齢施設で長年続いている活動がある</li> <li>・各団体（5団体）が集まって合同で活動している行事</li> <li>・会員は全員女性</li> <li>・会員はたくさんいるが、活動出来る人は半分程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化している、体力的に心配</li> <li>・若い会員、男性会員が少ない</li> <li>・活動がマンネリ化している</li> <li>・目指すべき姿がわからない</li> <li>・移動手段がない</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人や男性会員に入ってほしい</li> <li>・地区住民全員が集まれる場が必要</li> <li>・各種団体が話し合える機会、場所があればいい</li> <li>・困っている人を地区で助け合えるシステムにした</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりがもてる</li> <li>・役員が昔がまんばっている</li> </ul>
田家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年前に20名からスタートし、現在85名まで増えた</li> <li>・ほとんどが女性で、若い世代もいる</li> <li>・男性は7名と少ないが、力仕事に協力的</li> <li>・趣味や味噌づくり等は、若い世代の参加者が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の会員増が難しい</li> <li>・大変な人が増えてきたらどうしていいかわからない</li> <li>・どこを目指せばいいかわからない</li> </ul>	● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の活躍</li> <li>・他団体のいい活動を共有していきたい</li> <li>・地区、自治会、町内会等と方向性を統一した地域</li> </ul>	● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で仲良し</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> </ul>
村椿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員は女性のみ、70代が多い</li> <li>・やる気のある人材が揃っていきみ活動に協力的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの高齢化により活動がいつまでできるか</li> <li>・会員数に差があり役員の成り手がいない地区もある</li> <li>・活動メンバーはいつも同じ顔ぶれ</li> <li>・働いている人は活動に参加できにくい</li> <li>・活動財源が不足している</li> </ul>	● ● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が途切れることなく継続していきたい</li> <li>・サロンの内容を充実させていきたい</li> <li>・地区ごとに孤立せず気軽に集まれる場所があれば</li> </ul>	● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> </ul>
大布施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員は女性のみ、70代が多い</li> <li>・継続できている取り組みがある</li> <li>・臭わず活動している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化、新規加入者、男性会員が少ない</li> <li>・働いている人に声をかけにくい</li> <li>・活動がマンネリ化している</li> <li>・デジタル化についていけない</li> <li>・補助金が減ってきている</li> </ul>	● ● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現活動を地道に継続し次世代につないでいきたい</li> <li>・地区ごとにもなんでも話し合える場所があればいい</li> <li>・今まで続けてきた活動を継続していきたい</li> </ul>	● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で仲良し</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> </ul>
三日市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防を目的に様々な活動をしている</li> <li>・10町内あり各町内年3回程度サロン活動を実施</li> <li>・60～70代が多く、会員の1割が男性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代は仕事があり、声をかけづらい</li> <li>・助成金の制限が厳しくなってきた</li> </ul>	● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代に活動を見してほしい</li> <li>・担い手が増えればいい</li> </ul>	● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的</li> <li>・活動協力が多く</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> <li>・喜んでもらうのがやりがいである</li> </ul>
前沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性中心の「ボランティア前沢」がある</li> <li>・会員の3割が男性、7割が女性</li> <li>・男性中心に一人暮らし高齢者の除雪等も行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規会員が増えない</li> <li>・定年が延び、活動者数が減少していくのでは</li> <li>・男女別々の組織なので一緒に活動する機会少ない</li> </ul>	● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人にもボランティア活動に参加してほしい</li> <li>・若い世代を育成していきたい</li> <li>・座談会など様々な世代と話し合える場がほしい</li> <li>・他団体と連携し活動範囲を広げてほしい</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力が多く</li> <li>・人の顔がよくわかる</li> </ul>
斑生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50～60代の男性20名で構成されている会がある</li> <li>・上記団体が地区ボランティアとして活動してくれている</li> <li>・傾聴ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの高齢化、若い会員が不足</li> <li>・全町内にボランティアがない</li> <li>・組織づくりがうまくいっていない</li> <li>・事務担当者がいない、提出書類が複雑</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人にもボランティア活動に参加してほしい</li> <li>・若い人に入会してもらいたい</li> <li>・活動拠点が新設され活動が活性化している</li> </ul>	● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力が多く</li> <li>・活動内容が多種である</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> </ul>
若栗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員はすべて女性</li> <li>・順繰りでリーダーが回ってくる</li> <li>・使命感をもち活動している</li> <li>・強制せず出れるときに参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性に声をかけづらい</li> <li>・新しい方をどう誘うか</li> <li>・リーダーにならなからない</li> <li>・自主的な参加者が少ない</li> </ul>	● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の活動が引き継がれている地区であってほしい</li> <li>・巻き込むことを意識していきたい</li> </ul>	● ●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で楽しい</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> </ul>



地区名	①地域活動（活動支援者）の実態	②じぶんの地区のこれから（不安・課題）	分類	③じぶんの地区のこれから（ありたい姿）	分類	④自団体の良いところ
奥布施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア発足以来続いている活動がある（藤油せつけんづくり）</li> <li>・60代から70代後半が中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの高齢化、若い会員が不足</li> <li>・次のリーダーが見つけられない</li> <li>・若い人に声を掛けられない</li> <li>・活動に対する指導者がいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人にも来てほしい</li> <li>・会員が増え活動が活性化</li> <li>・他団体と連携し活動範囲を広げていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的</li> <li>・地域の方と交流がもてる</li> <li>・役員が皆がんばっている</li> </ul>
宇奈月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内山、音沢地区と一緒にやっている活動がある（宇奈月公園に生息するホタルを守る会）</li> <li>・まちづくり推進員が中心となつて月2回団体操教室を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、若い人が少ない</li> <li>・地区社協事務員を増やしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力が増えるといい</li> <li>・集まる場をつくってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力が多い</li> <li>・役員が皆がんばっている</li> </ul>
音沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇奈月、内山地区と一緒にやっている活動がある（ホタルの会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進んでいる</li> <li>・子供がいない</li> <li>・若い世代も引越していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動範囲を広げたい</li> <li>・みんなが集まる場づくりをしていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が仲良く活動している</li> </ul>
内山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇奈月、音沢と一緒にやっている活動がある（メダカを守る会）</li> <li>・4つの団体が活動中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進んでいる</li> <li>・若い物難民が増えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が集まる企画を試していきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆仲良しで思いやりがある</li> </ul>
粟本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブの参加、協力あり</li> <li>・3世代交流を深める活動、男性参加者も多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代交代するための次の世代が少ない</li> <li>・若い会員が少ない</li> <li>・独身高齢者の孤立が心配</li> <li>・活動場所が遠方で継続していきけるか不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にぎやかな通疎地域を目指したい</li> <li>・元氣な活動高齢者でいたい</li> <li>・地域のみんなが集まる関係づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力が多い</li> </ul>
下立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活動者が多く、男性参加者が徐々に減少</li> <li>・世代間交流につながる活動が活発（金刀毘羅山ウォーク）</li> <li>・介護予防教室やサロン活動のお手伝いをしている</li> <li>・若い人や親子参加できる活動を開催している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代とのつながりが少ない</li> <li>・声がかかるとまで待っている人もいる</li> <li>・お嫁に来る人が少なく、出ていく人が多い</li> <li>・女性の負担が大きい、高齢化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が参加し、つながりができる地区に</li> <li>・他の地区と情報共有できる場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力が多い</li> <li>・地域でのつながりを感じる</li> </ul>
浦山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材は豊富である</li> <li>・助けてくれる人がたくさんいる</li> <li>・仕事を分担し使命感をもって活動に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拒否する人との関わり</li> <li>・認知症の方への対応、地域住民の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に対する交通費負担などのしくみ</li> <li>・健康寿命を延ばすための取り組み、データ化</li> <li>・福祉活動が充実し、住みやすい地域に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> <li>・役員が皆がんばっている</li> </ul>

※②、③については、3つ（人…● / 場・しくみ・拠点…●● / 資金・資源…●●●）の課題に分類した

【まとめ】

今回のヒアリング調査で見えてきたこととして、地区によって活動の実態は様々であったが、今後の不安や課題においては、どの地区も「人」の問題、中でも若い人員、男性の参加を多く求める声があった。また、組織を活性化していく上でのしくみづくりに関する提案を求める声が多かった。その他、世帯数が多い地区においては、活動の財源不足も課題となっていた。

そのような課題がある中で、今後、目指すべきありたい姿としても、やはり、若い世代の参加、活躍を期待する声が多く求められていた。さらには、情報共有できる場づくりが必要であり、様々な世代、分野、活動者との意見交換ができるよう、集まれる場、関係づくりができる地域を目指していきたいと感じていることがわかった。